

2025シラバス一覧（教職課程科目）

教職課程科目	
シラバスNo.	科目名
250050010	教育原理
250050020	教職概論
250050030	教育法概論
250050040	教育心理学
250050050	特別支援教育の基礎
250050060	教育課程論
250050070	道徳教育論
250050080	総合的な探究の時間の指導法
250050090	特別活動論
250050100	教育方法・技術論（ICT活用の理論と実践を含む）
250050110	生徒指導論
250050120	学校カウンセリング
250050130	進路指導及びキャリア教育
250050140	栄養教諭論
250050150	食生活・食文化論
250050160	食教育指導論
250050170	栄養教育実習事前事後指導
250050180	栄養教育実習
250050190	教職実践演習（栄養教諭）
250050200	倫理学
250050210	公民科指導法Ⅰ
250050220	公民科指導法Ⅱ
250050230	福祉科教育法Ⅰ
250050240	福祉科教育法Ⅱ
250050250	教育実習事前事後指導
250050260	教育実習
250050270	教職実践演習（高）
250050280	知的障害心理・生理・病理
250050290	肢体不自由心理・生理・病理
250050300	病弱心理・生理・病理
250050310	障害児教育課程論
250050320	肢体不自由者教育課程論
250050330	肢体不自由教育演習
250050340	病弱教育学
250050350	視覚障害教育総論
250050360	聴覚障害教育総論
250050370	障害児教育実習事前事後指導
250050380	障害児教育実習

科 目 名	教育原理		
科 目 名 (英 語)	Principles of Education	シラバスNo.	250050010
担 当 教 員 名	小西 二郎		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	受講生の皆さんが「理論－実践」関係について自覚的に考えるようになり、かつそのことが教員の職務上、どれだけ必要かについて考えるようになることです。		
受 講 の 留 意 点	<p>○授業のリアルな現実をとらえることを通して、なかなか言葉にできない教育の難しさや魅力の本質について考えてみて下さい</p> <p>○新聞を読み、テレビ等のニュースをみることをお忘れなく</p> <p>○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中でそれを取り上げることがあります</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>1 テーマ： 「教育現場・実践と理論は相互に支え合う、鍛え合う」について考える</p> <p>○教育とはどういう営みか。その歴史的背景や哲学・思想的思索について考えます</p> <p>○そのことを通して、教育哲学・思想・歴史的考察の「有用性」について考えます</p> <p>2 授業の形式</p> <p>○応答的な授業展開を心がけます。例えば、毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭あるいはリアクション・ペーパーも用いて行ないます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>○ミニレポートに対する応答（口頭あるいはリアクション・ペーパー）</p>		
授 業 の 計 画	<p>1 序 本科目の位置づけとねらい</p> <p>2 第Ⅰ部 「教育原理」は必要？</p> <p>第1章 教育の哲学・思想・歴史を学ぶことについて考える</p> <p>3 第2章 教育をどうとらえるか</p> <p>4 第Ⅱ部 西洋における学校教育の歴史と思想</p> <p>第1章 学校教育の歴史と思想に踏み込むにあたって</p> <p>5 第2章 西洋における学校教育の歴史（その1） 学校体系の三類型</p> <p>6 第2章 西洋における学校教育の歴史（その2） 産業革命と近代学校の出発</p> <p>7 第2章 西洋における学校教育の歴史（その3） 国家と近代学校</p> <p>8 第2章 西洋における学校教育の歴史（その4） 新教育運動について</p> <p>9 第3章 近代教育の思想（その1） J. ロックの教育思想</p> <p>10 第3章 近代教育の思想（その2） ルソーの教育思想</p> <p>11 第3章 近代教育の思想（その3） デューイの教育思想</p> <p>12 第Ⅲ部 近代以降の日本における学校教育の歴史</p> <p>第1章 近代学校制度の出発と展開</p> <p>13 第2章 大正期の学校教育</p> <p>14 第3章 戦時下の学校教育</p> <p>第4章 戦後の学校教育</p> <p>15 まとめ 教育という経験と子どもと向き合うということ</p>		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	プリントを読んでおく。
	復習	90分	プリントとノートしたことを読み返して理解を深める。関心と必要に応じて参考文献にあたる。

成績評価方法	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します(ミニレポート 21 点、試験 79 点、計 100 点)。
教科書 (購入必須)	使用しません。プリントを配付します。
参考書 (購入任意)	<p>主な参考文献は以下の通りです。講義の中で適宜、他の文献も紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木村 元他編著(2020)『アクティベート教育学 01 教育原理』ミネルヴァ書房。 ○山内清郎他編著(2020)『新しい教職教育講座 教職教育編① 教育原論』ミネルヴァ書房。 ○貝塚茂樹・広岡義之編著(2020)『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房。 ○長谷川まゆ帆(2007)『世界史リブレット 89 女と男と子どもの近代』山川出版社。 ○広田照幸(2009)『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店。 ○福井憲彦(2017)『興亡の世界史 近代ヨーロッパの覇権』(講談社学術文庫) 講談社。

科 目 名	教職概論				
科 目 名 (英 語)	Studies on Teaching Profession	シラバスNo.	250050020		
担 当 教 員 名	小西 二郎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択		資 格 要 件	教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対 応 す る ディプロマ・ポリシー					
学 修 到 達 目 標	受講生の皆さんが日本社会の変化との関わりで、教員の仕事、その意義をとらえるという視点から、しかも受講生の皆さん自身で自覚的に考察を深めていくとともに、教職を自らの進路とするかを強く考えるようになることです。				
受 講 の 留 意 点	○児童・生徒・学生の視点をこえて、教員としての視点を獲得することを心がけ、その視点から教育について考えるようにして下さい ○新聞を読み、テレビ等のニュースをみて下さい ○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>1 テーマ： 社会にとって教職ってなんだろう。そしてその「社会にとっての教職」は自分にとってなんだろう。考えてみよう</p> <p>○中学・高校の先生は仕事としてどんなことをやっているのか、その概略をおさえます</p> <p>○日本の社会は、この間、大きく変化し、それともなって教職の意義もあらためて問われています。このことについて考察します。</p> <p>○全体を通して、受講生の皆さんが、自らの進路として教職を選択するかを考える際の観点を獲得できるような内容となることを目指します</p> <p>2 授業の形式： 応答的な授業展開を心がけます。毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を行ないます</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>○ミニレポートに対する応答（口頭あるいはリアクション・ペーパー）</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 序章 さあ、教員への第一歩です——この科目の位置づけとねらい・概要</p> <p>2 第1章 教員はどうみられているのだろうか？——教員に対するまなざし</p> <p>3 第2章 さて、わかりますか？ 教員の仕事の全貌</p> <p>第1節 教員の仕事の特徴</p> <p>4 第2節 学習指導</p> <p>5 第3節 生徒指導・進路指導と学級経営</p> <p>6 第4節 部活動の指導</p> <p>第5節 校務分掌</p> <p>7 第6節 保護者や地域との連携</p> <p>第7節 まとめにかえて</p> <p>8 第3章 「チームとしての学校」について考えよう</p> <p>第1節 「チームとしての学校」導入の経緯</p> <p>第2節 「チームとしての学校」導入の背景・目的</p> <p>9 第3節 「チームとしての学校」の組織構造</p> <p>10 第4節 「チームとしての学校」——その光と影、そして今後の課題</p> <p>11 第4章 教員は社会の中の組織の一員なのだ</p> <p>第1節 教員には、一定の規律に服する義務がある——服務と規律</p> <p>12 第2節 教員の身分保障と分限・懲戒——公務員である教員の場合</p>				

	<p>13 第5章 教員は教育する人であり、そして研究する人なのだ 第1節 教員研修をめぐる法と制度</p> <p>14 第2節 教員研修の種類</p> <p>15 まとめ あらためて教職の社会的意義や教員像について考えてみよう</p>		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	プリントを読んでおく。
	復習	90分	プリントやノートしたことを読み返して理解を深める。関心と必要に応じて参考文献にあたる。
成績評価方法	毎回、書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します(ミニレポート21点、試験79点、計100点)。		
教科書 (購入必須)	使用しません。プリントを配付します。		
参考書 (購入任意)	<p>主な参考文献は以下の通りです。講義の中で適宜、他の文献も紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○岩田康之・高野和子編(2012)『教職論』(教師教育テキストシリーズ2)学文社。 ○藤本典裕編著(2019)『新版(改訂二版)教職入門——教師への道』図書文化。 ○佐久間亜紀・佐伯 胖編著(2019)『アクティベート教育学 02 現代の教師論』ミネルヴァ書房。 		

科 目 名	教育法概論		
科 目 名 (英 語)	Education Law	シラバスNo.	250050030
担 当 教 員 名	栞山 茂樹		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。		
受 講 の 留 意 点	私の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は、可能なら併せて履修してほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>教育法とは、日本国憲法・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法・教育基本法体制の下で新たに出発し、国の教育政策に対する抵抗運動を通じて発展を遂げた。その中で、教科書裁判など多くの重大な事件・争点が生み出されてきた。</p> <p>この授業では教育法の主要事項と、その代表的な争点について学ぶ。</p> <p>将来教師となる人々には、法を順守して職務に臨む良識を身につけてもらいたい。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となるであろう。</p>		
授 業 の 計 画	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス 2 教育法とは何か 3 教育法の歴史：明治憲法・教育勅語体制、日本国憲法・教育基本法体制、戦後教育法学の展開 4 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育、私学助成 5 教育基本法：1946年教育基本法、2006年改正法 6 学校教育法：学校制度 7 地教行法：教育委員会、教育の地方分権化 8 学校安全：学校保健安全法ほか 9 国際教育法と日本 10 教育権論争 11 教科書検定制度 12 日の丸・君が代訴訟 13 公立学校と政教分離 14 校則裁判① 15 校則裁判② 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	指定教科書・参考書を読む。
	復習	90分	講義内容に従って指定教科書を読み直す。専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。政府機関や裁判所等の Web サイトに目を通す。

成績評価方法	期末試験(100%)
教科書 (購入必須)	姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015) そのほか追加資料を配布する。
参考書 (購入任意)	荒牧重人ほか編『新基本法コンメンタール 教育関係法』(日本評論社、2015) そのほか参考文献を随時紹介する。

科 目 名	教育心理学		
科 目 名 (英 語)	Educational Psychology	シラバスNo.	250050040
担 当 教 員 名	糸田 尚史		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	資格要件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	心理臨床の現場（児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センター）において心理職（判定員・福祉専門員・心理士）として勤務した経験を有し、現在も児童相談所で児童心理司研修の講師も務めている実務家出身教員が、人間性にとって不可欠な「教育」という営為に寄与する科学としての心理学について指導する科目		
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	教育にかかわる心理学の理論と実践について学び、知識や応用力を修得する ・教育にかかわる心理学の理論を理解している ・教育にかかわる心理学の知識を有し、教育現場で活用できる力が身についている ・教師としての自覚と責任をもつことができる		
受 講 の 留 意 点	教育心理学の実験や演習も行うので積極的に参加してほしい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	発達、神経発達症（知的能力障害・ASD・ADHD・SLDなどの発達障害）、学習、記憶、モチベーション（動機づけ）、知能、学校心理学、教育心理学史など、教育と関連の深い心理学的なトピックスについて解説する。 アクティブ・ラーニングの内容 実際の知能検査用具や教育相談事例などにもふれ、検討する。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材、教育にかかわる優れた絵本などのビジュアルなコンテンツ、教育的な遊びなども織り交ぜ、その体験をシェアリングし合う。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達(1)：発達（獲得と喪失）、生理的早産（ポルトマン）、遺伝・環境、比較行動学（ローレンツ）、パーソナリティ発達理論（フロイト）、ライフサイクル論（エリクソン）、発生的認識論（ピアジェ）、愛着（アタッチメント）理論、発達の最近接領域（ヴィゴツキー） 2 発達(2)：言語発達、概念発達、認知発達、遊びの発達、道徳性の発達、アイデンティティ（自我同一性）論 3 発達の障害（神経発達症群）と特別支援教育(1)：知的能力障害、ASD（自閉スペクトラム症）、心の理論、サリーとアンの課題（誤信念課題）、発達検査（新版K式2020） 4 発達の障害（神経発達症群）と特別支援教育(2)：SLD（限局性学習症）、ADHD（注意欠如多動症）、教育（発達支援）法 5 学習(1)：レスポネント（古典的）条件づけ（パブロフ）、オペラント（道具的）条件づけ（スキナー）、社会的学習（社会的認知）理論（バンデューラ） 6 学習(2)：状況論的アプローチ（レイブとウエンガー）、生態学的システム理論（Bronfenbrenner） 7 学習(3)：発見学習（ブルナー）、有意味受容学習（オズベル）、適性処遇交互作用（クロンバック） 8 記憶(1)：二重貯蔵モデル（記憶の貯蔵庫モデル）、感覚記憶、ワーキングメモリー（中央実行系、視空間スケッチパッド・音韻ループ・エピソードバッファ）、長期記憶 9 記憶(2)：陳述記憶（エピソード記憶、意味記憶）、非陳述記憶（非連合学習（馴化・鋭敏化）、条件づけ、プライミング記憶、手続き記憶）、系列（内）位置効果、忘却、メタ認知、記憶方略 10 動機づけ(1)：欲求階層説（マズロー）、内発的動機づけ・外発的動機づけ、好奇心、過剰正当化効果 11 動機づけ(2)：学習性無気力（セリグマン）、原因帰属理論（ワイナー）、自己効力感（バンデューラ） 12 知能(1)：2因子説（スピアマン）、多因子説（サーストン）、流動性知能・結晶性知能（キャッテル）、CHC（キャッテル・ホーン・キャロル）理論 		

	13	知能(2)：知能検査法、ビネー法、ウェクスラー法 (WPPSI-III、WISC-V、WAIS-IV)、カウフマン法 (KABC-II)、知能指数 (IQ)
	14	学校心理学：教育評価、教育相談、不登校、心理検査法、心理的支援
	15	教育心理学史：まとめ
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分 上記授業計画に基づき、事前に当該の教育心理学的トピックスについて、山村豊・青木智子 編著『改訂版 学びのための心理学』(北樹出版)の教科書を読み、大学図書館、インターネットなどを活用し、専門用語の意味を理解しておく。
	復習	90分 授業で配布された PowerPoint の紙媒体資料とそれに書き加えられたメモ書きをもとに、事後にも教科書、参考書、大学図書館、インターネットなどのツールやリソースにより、復習していただく。
成績評価方法	(1) 期末レポート：70% (2) 授業毎のリアクション・ペーパー：30%	
教科書 (購入必須)	山村豊・青木智子 編著 『改訂版 学びのための心理学』 北樹出版 2020年	
参考書 (購入任意)	斎藤富由起・守谷賢二 編著 『教育心理学の最前線』 八千代出版 2019年 子安増生・丹野義彦・箱田裕司 監修 『有斐閣 現代心理学辞典』 有斐閣 2021年 ナイジェル・C・ベンソン 著(清水・大前 訳) 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社(ブルーバックス) 2001年	

科 目 名	特別支援教育の基礎		
科 目 名 (英 語)	fundament of Special Needs Education	シラバスNo.	250050050
担 当 教 員 名	矢口 明		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、各項目において経験に基づく具体的な内容を盛り込むことで、学生が興味や関心を持つとともに教育のやり甲斐を感じることができるようにする。		
対応する ディプロマ・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> ・人文・社会・自然および地域を幅広く理解し、人々を取り巻く環境や健康・食生活に関する課題について多角的にとらえる視点を身に付けている。 ・幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。 		
学 修 到 達 目 標	<p>教育職員免許法の改正に伴って、本授業が設定された経緯について理解する。インクルーシブ教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子どもの教育の在り方について理解する。障害についての基本的な理解や具体的な支援の方法について理解する。障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。感覚過敏などによって障害等のある子どもが感じている生きづらさ（偏食など）について理解する。</p>		
受 講 の 留 意 点	<p>授業の終了後に配布するリアクションペーパーには、講義の感想やもっと知りたいこと、学んだことを専門職としてどのように生かしていくかを書いて提出することになっているが、もっと知りたいと思ったことについては、次の講義までに自分でも調べたり考えたりしてみること。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>(1) インクルーシブ教育を支える理念、(2) 障害等の理解と支援(3) 家庭及び関係機関との連携、(4) 障害等のある子どもにかかわる教育や福祉の現状と課題(5) 感覚過敏や感覚鈍磨、(6) 発達障害児の偏食、などに関する学ぶ。</p> <p>リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 特殊教育から特別支援教育へ転換の経緯 2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムが目指すもの 3 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(1) LD、ADHDの児童生徒 4 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(2) 自閉スペクトラムの児童生徒 5 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援(3) 診断のない児童生徒 6 児童生徒の行動の理解と対応(1) コミュニケーション 7 児童生徒の行動の理解と対応(2) 不適切な行動 8 特別支援学級、通級指導教室の教育課程と個別の教育支援計画 9 特別支援学校の教育課程と自立活動の指導 10 就学に向けた相談支援体制と福祉制度 11 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制 12 家庭や地域と連携した支援体制の構築 13 関係機関と連携した支援体制の構築 14 発達障害児の偏食の原因とその理解 15 発達障害児の偏食への対応 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	
	復習	90分	授業の内容について関心を持ったことを調べる。

成績評価方法	リアクションペーパーにより、特別支援教育への関心の持ち方や講義内容の理解の状況を把握し、評価する。
教科書 (購入必須)	
参考書 (購入任意)	発達障害とはなにか (古荘純一著) 発達障害児の偏食改善マニュアル (山根希代子監修)

科 目 名	教育課程論		
科 目 名 (英 語)	Curriculum Theory	シラバスNo.	250050060
担 当 教 員 名	河合 宣孝		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	講 義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	北海道立高校で34年間、教諭、教頭、校長の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義実践に努めている。学習指導要領と教育課程編成の学習においては、学校現場における教育課程編成の実際について体験的に学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントについて学校経営・学校運営の経験に基づく具体例を紹介しながら学びを展開していく。		
対応する ディプロマ・ポリシー	本科目は、栄養学科学位授与方針、2幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている、6児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている、および、社会福祉学科学位授与方針 2人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている、5地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている、に対応している。		
学 修 到 達 目 標	① 教育課程に関する基本的事項やカリキュラム研究成果（理論）の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。 ② 新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握するとともに、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べることができる。 ③ 各学校における実際の教育課程表を読み取りその教育内容を考察するとともに、自らが担当する教科科目を教育課程に位置付けて教育内容を構想することができる。		
受 講 の 留 意 点	・学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題や学校課題解決のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。 ・教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと（割り当てや資料作成方法などは講義で説明します）。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	わが国の学校教育の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程・カリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、学校における教育課程編成の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、新学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、これからの学校教育の展開の在り方とその課題を考察する。あわせて法令を踏まえた教育課程の編成・実施の実際について学び、カリキュラム・マネジメントを通じて生徒に求められる資質・能力をいかにして身に付けさせるかについて考察する。 アクティブ・ラーニングの内容 ①個人ワーク、ペアワーク、グループワーク等をその都度実施することを通じて、「思考と対話の実践」を多く取り入れる。 ②学生全員が高校時代(中学時代)に経験した学習の教育課程表を再現しグループ活動で説明する。 ③学生全員が、割り当てられた教科書のPPT資料を作成・発表する「輪読発表」を通じて「まとめる力、発表する力」を獲得する機会とする。		
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造 3 近代・現代日本の教育課程の歩み 4 教育課程の編成と諸要因 5 学習指導要領と教育課程編成の実際 6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 8 教育課程と評価 9 カリキュラム開発と学力向上策 10 国際学力調査の教育課程改革への影響		

	<p>11 様々な教育課程の改革</p> <p>12 新しい学習指導要領の検討（1）理念・キーワード</p> <p>13 新しい学習指導要領の検討（2）改訂内容など</p> <p>14 教育課程の現代的課題（カリキュラム・マネジメント等について）</p> <p>15 講義のまとめ</p>
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	<p>予習 各講2時間 ×15回 = 30時間</p> <p>大学設置基準の定める時間数は2単位×45時間=90時間となっています。授業時間外での学修時間は90時間-30時間=60時間となります。このため予習・復習にそれぞれ30時間の学修を要しますので、各講の教科書の該当ページについて事前に読んで予習をして授業に臨んでください。</p>
	<p>復習 各講2時間 ×15回 = 30時間</p> <p>講義後に授業ノートや配布資料等を見直し、復習をしてください。</p>
成績評価方法	<p>■レポートや演習課題等の提出（30点） ■まとめの演習課題提出（30点）</p> <p>■グループワークを含む授業への参加状況や輪読の発表成果（40点）</p>
教科書 （購入必須）	古川治ほか編(2019)『改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房
参考書 （購入任意）	<p>文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）</p> <p>田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵（2018）「新しい時代の教育課程[第4版]」有斐閣</p>

科 目 名	道徳教育論		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	250050070
担 当 教 員 名	日下部憲一		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義 資 格 要 件 教職(栄養)：必修 教職(高公・高福)：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道徳は「特別の教科 道徳」として教科化され、各学校では検定教科書が使用されている。中学校道徳科教科書「新しい道徳」(令和3年度発行 東京書籍株式会社)の編集委員として教科書、教師用指導書等の執筆及び校閲に当たった。実務経験を活かして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の実践的課題や展望等を踏まえ、教育現場に求められる教員の資質・能力及び実践的指導力の向上とその在り方について説明していきたい。		
対応する ディプロマ・ポリシー	次の要件の育成を図り専門職業人としての実践力の修得の支援をしていきたい。 ・幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身に付けている。(栄養学) ・児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身に付けている。(栄養学) ・個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身に付けている。(社会福祉学)		
学 修 到 達 目 標	学修テーマ 1 道徳の理論：道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 2 道徳の指導法：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 1-1)：道徳の本質(道徳とは何か)を説明できる。 1-2)：道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解している。 1-3)：子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 1-4)：学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 2-1)：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 2-2)：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 2-3)：道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 2-4)：授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 2-5)：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 2-6)：模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。		
受 講 の 留 意 点	日頃から書籍や新聞報道等を通して身近な教育問題に関心を持つとともに、事前・事後学修を適切に行い常に課題意識をもち授業に臨む。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。 アクティブ・ラーニングの内容 毎回の授業でのグループワーク(討議)やポスターセッションによる発表会を通して、多様な見方・考え方を深めるとともに、問題解決的な学習等を積極的に取り入れ実践的指導力の向上を図る。		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション及び道徳教育の意義、道徳教育の現状と課題(子供を取り巻く現状等) 2 道徳教育の歴史(戦前と戦後)及び道徳の理論(本質、子供の道徳性の発達等) 3 道徳教育の実際1(道徳教育と道徳科の目標及び道徳科の内容) 4 道徳教育の実際2(指導計画の作成及び道徳科の特質とその指導の在り方) 5 道徳教育の実際3(アクティブ・ラーニングを位置づけた課題解決的な学習やモラルジレンマ学習等学習指導の多様な展開及び情報モラル等の現代的課題の指導) 6 道徳教育の実際4(教材開発の創意工夫と道徳科に生かす教材)		

	7	道徳教育の実際5（道徳科の評価）
	8	道徳授業の実際1（アクティブ・ラーニングを位置づけた読み物教材「おかあさんのせい求書」の模擬授業）
	9	道徳授業の実際2（読み物教材「バスと赤ちゃん」の模擬授業と授業改善の視点）
	10	学習指導案の研究と作成1（読み物教材による学習指導案の研究）
	11	学習指導案の研究と作成2（読み物教材による研究結果から学習指導案の作成）
	12	学習指導案の研究と作成3（視聴覚教材による学習指導案の研究）
	13	学習指導案の研究と作成4（新聞教材による学習指導案の研究）
	14	学習指導案の研究発表と意見交流（ポスターセッションによる発表会）
	15	道徳教育のまとめと展望（道徳の本質と子供の心の成長及び教育活動全体を通じた指導の在り方等）及び試験
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	120分 学修内容を確認し、適宜教科書等を読むなど疑問や課題等を把握する。
	復習	120分 学修内容や課題レポート等をまとめる。
	シラバスを確認し授業全体の学修内容を把握するとともに、小中学時代に学んだ道徳授業の内容等について整理しておく。	
成績評価方法	次項の項目及び割合で総合的に評価する。 ■試験：50% ■課題レポート：25% ■学習態度・発表：25% 試験（第15回目の授業で実施する）：50点 課題レポート（5回）：25点（5点×5回） 学習態度・発表：25点（毎回の授業の自己評価カード 1点×15回 + ポスターセッションによる発表作品 10点）	
教科書 （購入必須）	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（教育出版）	
参考書 （購入任意）	授業中に適宜資料を配付する。	

科 目 名	総合的な探究の時間の指導法			
科 目 名 (英 語)	Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study	シラバスNo.	250050080	
担 当 教 員 名	松田 剛史			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	・中学校及び高等学校での教員経験を活かした実務的な内容に関わる授業を実施する			
対応する ディプロマ・ポリシー	【社会福祉学科】 5 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。 【栄養学科】 6 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	・総合的な探究の時間の意義と目標を理解することができる。 ・教育活動としての効果的な総合的な探究の時間のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。			
受 講 の 留 意 点	・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。 ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。 ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。 ・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。 ・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	総合的な探究の時間の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際的な探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。 アクティブ・ラーニングの内容 ・グループディスカッション ・フィールドワーク ・課題解決活動			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション ～総合的な探究の時間とは何か～ 2 総合的な探究の時間の教育的意義と目標 3 総合的な探究の時間の実践の実際と留意点 4 教育活動の評価とカリキュラム・マネジメント 5 演習①～フィールドワークを準備する～ 6 演習②～フィールドワークを経験する～ 7 演習③～主体的で体験的な探究の指導を計画する～ 8 総合的な探究の時間という教育活動は何だったか			
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	教科書の事前学習及び事前課題への対応	
	復習	90分	グループ学習及び事後課題への対応	
	・教科書の内容を読み込み、次回の講義への準備 ・事後課題への取り組み ・主に演習課題に対するグループ内での課題解決に関する自主的な活動			
成 績 評 価 方 法	・学習活動へ取り組むパフォーマンス(60点) ・レポートや各種学習成果に関する提出物(40点)			

教科書 (購入必須)	1. 関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2025年 2. 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』東山書房 2018年
参考書 (購入任意)	適宜情報を提供する

科 目 名	特別活動論		
科 目 名 (英 語)	Extra-curricular Activities	シラバスNo.	250050090
担 当 教 員 名	松田 剛史		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修
開 講 時 期		資 格 要 件	教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	・中学校及び高等学校での教員経験を活かした実務的な内容に関わる授業を実施する		
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	<栄養学科> 6児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。 <社会福祉学科> 5地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	・特別活動の意義と目標を理解することができる。 ・教育活動としての効果的な特別活動のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。		
受 講 の 留 意 点	・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。 ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。 ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。 ・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。 ・講義日時以外（土日休含む）でのフィールドワークや学校訪問などの学外活動がある。日程については事前に履修生と調整する。（基本的に現地集合・解散）		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別活動の意義とねらいを理解し、各教科や領域で培った知識や経験を活用することを通して養う実際的な探究的な学びの在り方について共に考え、指導に必要な知識・技能や素養を身につける授業である。 アクティブ・ラーニングの内容 ・グループディスカッション ・フィールドワーク ・課題解決活動		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション ～特別活動とは何か～ 2 特別活動の歴史の変遷 3 特別活動の教育的意義と目標 4 学級活動・ホームルーム活動の実践 5 児童会・生徒会活動／クラブ活動／学校行事の実践 6 演習①～指導計画を構想する～ 7 演習②～指導計画を作成する～ 8 特別活動という教育活動は何だったか		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予 習	90分	教科書の事前学習及び事前課題への対応
	復 習	90分	グループ学習及び事後課題への対応
	・教科書の内容を読み込み、次回の講義への準備 ・事後課題への取り組み ・主に演習課題に対するグループ内での課題解決に関する自主的な活動		
成 績 評 価 方 法	・学習活動へ取り組むパフォーマンス(60点) ・レポートや各種学習成果に関する提出物(40点)		
教 科 書 (購 入 必 須)	1. 関川悦雄、今泉朝雄 編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』弘文堂 2025年 2. 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』東山書房 2018年		
参 考 書 (購 入 任 意)	・適宜情報を提供する		

科 目 名	教育方法・技術論（ICT 活用の理論と実践を含む）		
科 目 名（英 語）	Educational Methods and Techniques (and Theories and Practices for ICT in Education)	シラバスNo.	250000100
担 当 教 員 名	石川 貴彦		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>事物・事象を教育内容として構成し、授業で展開するための方法・技術を習得するとともに、ICT を活用した学習指導や情報活用能力の育成について理解する。また、ICT を用いたマイクロティーチング（模擬授業）を実践し、そこから得た学習履歴を用いてデータの可視化や分析を行うことで、自身の教育方法を客観的に捉え授業を改善していく力を身につける。</p>		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>教材研究、授業設計、学習評価、教育技術、ICT 活用といった授業を構成するためのプロセスを項目ごとに学習し、教育方法および技術と、ICT を活用した教育に関する理論および方法を習得する。これらを踏まえてマイクロティーチングの相互実践を行い、データの可視化・分析を通じて指導力向上や ICT の有効活用について検討する。なお、授業計画の各回に示した（方）は教育方法・技術、(I) は ICT 活用の理論と実践を表し、マイクロティーチングでは両方の要素が含まれる。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、指導案・教材作成、模擬授業など実践的な学習を多く取り入れる。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 これからの子どもたちに求められる教育方法の在り方（方）、LMS の登録・使用方法（I） 2 授業を構成する基礎的な要件、教材づくりの発想と工夫（方） 3 学習目標と評価、観点別学習状況の評価に応じた授業設計（方） 4 ICT 活用の意義と理論、特別の支援を必要とする児童生徒に対する ICT 活用の留意点（I） 5 教育技術、発問・板書の工夫、教材・教具の使い方（方） 6 情報活用能力・情報モラルを育成するための指導法（I） 7 学習指導案の書き方および作成（方） 8 指導案に基づくデジタル教材の作成（I） 9 教師主導から子ども主体の授業へ、アクティブ・ラーニングの考え方・実践（方） 10 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（栄養教諭）（方・I） 11 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（高校公民）（方・I） 12 デジタル教材を用いたマイクロティーチングの相互実践（高校福祉）（方・I） 13 教育データの可視化・テキストマイニングによる授業分析・授業改善（I） 14 校務支援システムを活用した校務の推進、データ共有、セキュリティ（I） 15 よりよい教育方法を目指して（方）、ICT 活用における外部との連携・環境整備（I） 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	指導案作成や教材づくり、授業練習を行い、模擬授業に向けた準備を進めること。
	復習	90 分	講義内容を振り返り、自身の教育方法や教育技術に反映させること。

成績評価方法	マイクロティーチングの実践・相互評価（40%）、期末レポート（40%）、指導案作成（6%）、授業分析シート（7%）、授業評価のリフレクションシート（7%）
教科書 （購入必須）	使用しない。授業中に資料を配布する。
参考書 （購入任意）	<p>食に関する指導の手引（第二次改訂版）（平成 31 年 3 月 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 公民編（平成 30 年 7 月 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 福祉編（平成 30 年 7 月 文部科学省）</p> <p>自分が小・中学校・高校時に使用していた教科書・資料を用意すること</p>

科 目 名	生徒指導論		
科 目 名 (英 語)	Student teaching theory	シラバスNo.	250050110
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必修選択	開 講 形 態 講義 資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	学校教育教員、社会教育主事の経験から、実際に教育現場でおこった出来事を例示しながら授業を展開していく。		
対応する ディプロマ・ポリシー	<栄養学科> 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。 <社会福祉学科> 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができるようになる。 ②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができるようになる。 ③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができるようになる。 ④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができるようになる。		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為の対応など幅広い生徒指導の内容を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について、事例をもとに学習を深める。教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 ケーススタディ、グループワーク、グループディスカッション		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①－目標と課題 2 生徒指導の目的②－発達観・指導観・新しい生徒指導の使命 3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導 4 生徒指導の組織と計画 5 生徒指導の意義と機能 6 生徒理解の内容 7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導 8 教育相談の理解と進め方 9 適応と発達 防衛機制と適応障害 10 問題行動①－様相 11 問題行動②－種類と原因 12 問題行動③－処遇 13 進路指導の目的と内容 14 教育現場の実際にふれる（ケーススタディ）グループ協議と発表 15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師」講義のまとめ		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	30分	次時の学習内容について、生徒指導提要（改訂版）の該当部分を予習する。
	復習	30分	授業の内容を整理し、ノートにまとめる。

成績評価方法	1. 定期試験 85点 2. リアクションペーパー 15点（授業の感想、課題提出など） 3. 授業態度を加味する
教科書 （購入必須）	授業ごとに資料を用意する。
参考書 （購入任意）	講義の中で適宜紹介する。生徒指導提要（改訂版）（文部科学省 令和4年12月）については、文科省のhpから閲覧できるので適宜活用すること。

科 目 名	学校カウンセリング		
科 目 名 (英 語)	School Counseling	シラバスNo.	250050120
担 当 教 員 名	真名瀬 陽平		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	資 格 要 件 教職：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	学校現場において、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識など）を身に付ける。また、学校における教育相談の意義や課題、具体的な進め方や連携について理解する。		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育相談の必要性や意義などを踏まえたうえで、カウンセリングの技法（カウンセリング・マインド含む）について学び、実際の学校における様々な課題について考えていきます。その後、校内連携やアセスメント方法などについて学んでいく中で、学校における教育相談に必要な知識や姿勢を身に付けていきます。		
	アクティブ・ラーニングの内容 毎回の講義において小レポートや小レポートを課し、教員からフィードバックをすることで能動的な学修への参加を促します。また、講義内容に応じて個人発表やロールプレイ、グループワークなどを実施します。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 教育相談の必要性と意義とは 2 カウンセリングの理論 3 カウンセリングの技法 4 学校における諸課題とその対応（1）いじめ 5 学校における諸課題とその対応（2）不登校 6 学校における諸課題とその対応（3）虐待 7 学校における諸課題とその対応（4）自殺 8 学校における諸課題とその対応（5）非行 9 学校における諸課題とその対応（6）発達障害 10 学校における諸課題とその対応（7）こころの病 11 校内連携・専門機関や地域との連携 12 教育相談におけるアセスメント（1）行動観察法・面接法 13 教育相談におけるアセスメント（2）心理検査法 14 家庭の理解と保護者への支援 15 キャリア教育と心理相談 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	次回の講義の内容について予告をするので、その内容についてインターネットや書籍を利用して調べ、要点をまとめたり、疑問をもってください。
	復習	90分	毎回の講義において課題を課しますので、必ず期日までに取り組んでください。
成 績 評 価 方 法	毎回の授業において課される課題（50%）、定期試験（50%）で評価します。		
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、授業実施時に資料を配布します。		

参 考 書 (購 入 任 意)	教育相談[第2版] (森田健宏・吉田佐治子編著、ミネルヴァ書房)
----------------------------	----------------------------------

科 目 名	進路指導及びキャリア教育		
科 目 名 (英 語)	Career Guidance& Career Education	シラバスNo.	250050130
担 当 教 員 名	小西 二郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー			
学 修 到 達 目 標	受講生の皆さんが、社会の変化との関わりでとらえるという見方で高校生の生活・ライフコースにアプローチしつつ、進路指導・キャリア教育について自覚的に考察できるようになることです。		
受 講 の 留 意 点	<p>○高校生の生きづらさや将来に対する見通しの不透明さはどのようなものか、それらは日本社会の変化とどう関係しているのかについて考えるようにして下さい</p> <p>○新聞を読み、テレビ等のニュースをみて下さい</p> <p>○毎回、ミニレポートを書いて頂きます。講義の中で取り上げることがあります</p>		
授 業 の 概 要 と ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 内 容	<p>1 テーマ： 日本社会の変化と進路指導・キャリア教育 ○日本社会の変化との関わりで進路指導・キャリア教育をとらえ、その困難性と課題について検討します</p> <p>2 授業の形式 ○応答的な授業展開を心がけます。例えば、毎回、授業の冒頭、前回のミニレポートに対する応答を口頭あるいはリアクション・ペーパーも用いて行ないます</p>		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<p>1 序 本科目の概要とウォームアップ</p> <p>2 第1章 進路指導原理の転換・キャリア教育の導入の経緯と背景</p> <p>3 第2章 高等学校における進路指導・キャリア教育の制度的枠組み（その1） 第1節 根本的な法的根拠 第2節 教育振興基本計画</p> <p>4 第2章 高等学校における進路指導・キャリア教育の制度的枠組み（その2） 第3節 高等学校学習指導要領</p> <p>5 第3章 高等学校における進路指導・キャリア教育の原理的困難性</p> <p>6 第4章 高等学校における進路指導・キャリア教育の実際（その1） 第1節 進路指導の実際</p> <p>7 第4章 高等学校における進路指導・キャリア教育の実際（その2） 第2節 キャリア教育・進路指導全体の展開の実際</p> <p>8 第5章 進路指導・キャリア教育の内容・方法における留意点</p>		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	プリントを読んでおく。
	復習	90分	プリントやノートしたことを読み返して理解を深める。関心と必要に応じて参考文献にあたる。
成 績 評 価 方 法	毎回書いて頂くミニレポートと試験の結果をもとに評価します（ミニレポート21点、試験79点、計100点）。		
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しません。プリントを配付します。		

参 考 書
(購 入 任 意)

主な参考文献は以下の通りです。講義の中で適宜、他の文献も紹介します。

- 春日井敏之・山岡雅博編著(2019)『新しい教職教育講座 教職教育編① 生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房。
- 山本敏郎他(2014)『新しい時代の生活指導』(有斐閣アルマ) 有斐閣。
- 林 尚志(2014)『新・教職課程シリーズ 生徒指導・進路指導』一藝社。
- 仙崎 武他編(2000)『入門進路指導・相談』福村出版。
- 児美川孝一郎(2013)『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書) 筑摩書房。
- 濱口桂一郎(2013)『若者と労働——「入社」の仕組みから解きほぐす』(中公新書クラレ) 中央公論新社。
- 佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2023)『新しい人事労務管理 第7版』有斐閣。

科 目 名	栄養教諭論		
科 目 名 (英 語)	Nutrition Teacher Theory	シラバスNo.	250050140
担 当 教 員 名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」について理解を深め、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させる科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。 7.保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	1. 児童生徒の現状・課題を踏まえ食に関する指導の必要性、学校給食の意義、役割等を説明できる。 2. 栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について理解を深め、栄養教諭としての使命、役割や職務内容を理解し、教育に関する専門性および栄養に関する専門性を横断的に身に付け、児童、生徒への指導ができる力を活用できる。		
受 講 の 留 意 点	栄養教諭は管理栄養士・栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識し、自らの課題を持ち意欲的に授業に臨んでほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達・食生活習慣などについて理解し、学校における食に関する指導の現状、課題の抽出、分析を行い、偏食や食物アレルギー、さらに肥満、糖尿病などの生活習慣病を予防する上で、児童生徒、保護者に対する有効な食に関する指導のあり方について論じる。</p> <p>②学校給食および食に関する指導にかかわる法令を理解する。</p> <p>③食に関する指導と各教科および給食管理のかかわりについて理解する。</p> <p>④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき、指導案の作成に繋がることを理解する</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・授業実践のDVD鑑賞後、授業内容と指導案についてグループ・ディスカッションを行う。 ・個別指導の実践DVDの鑑賞後、内容についてグループ・ディスカッションを行う。 		
授 業 の 計 画	<p>1 ガイダンス (シラバス説明)・栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達の現状と課題</p> <p>2 児童生徒の生活状況</p> <p>3 学校給食、食に関する指導の歴史</p> <p>4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令</p> <p>5 「食に関する指導」(1)－全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点</p> <p>6 「食に関する指導」(2)－指導計画・成果・評価</p> <p>7 「食に関する指導」(3)－①給食の時間 ②発達段階に応じた内容</p> <p>8 「食に関する指導」(4)－教科「総合的な学習の時間」「特別活動」</p> <p>9 「食に関する指導」(5)－教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」</p> <p>10 「食に関する指導」(6)－教科「道徳」「生活科」</p> <p>11 「食に関する指導」(7)－個別栄養相談指導 家庭・地域との連携</p> <p>12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成</p> <p>13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準</p> <p>14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理</p> <p>15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備</p>		

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	「栄養教諭論」「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む
	復習	90分	講義内容を振り返りノートにまとめる
	* 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。		
成績評価方法	小テスト（20点）、レポート（20点）、試験（60点）により総合的に評価する。		
	成績の評価基準		
	5	栄養教諭の職務である給食管理と食に関する指導についての法的根拠を理解し、児童生徒の実態から課題を見出し、教科と連携した食に関する指導に結び付けることができる。	
	4	栄養教諭の職務である給食管理と食に関する指導についての法的根拠を理解し、児童生徒の実態から課題を見出し、食に関する指導に結び付けることができる。	
	3	栄養教諭の職務である給食管理と食に関する指導について理解し、児童生徒の実態から課題を見出し、食に関する指導に結び付けることができる。	
	2	栄養教諭の職務について理解し、児童生徒の実態から課題を見出すことができる。	
1	食に関する指導における栄養教諭の役割が理解できる。		
教科書 (購入必須)	『栄養教諭論－理論と実際－4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月）』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月—平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版		
	『栄養教諭論－理論と実際－4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月）』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月—平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版		
参考書 (購入任意)			

科 目 名	食生活・食文化論		
科 目 名 (英 語)	Nutrition and Food Culture theory	シラバスNo.	250050150
担 当 教 員 名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を広く横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法技法等を修得させる科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	小中学生の生活環境に適した食に関する指導の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、日本の食生活の変遷や現状について知識を深め、地域の風土及び伝統に根ざした文化的な営みや食文化の継承、地場産物に関する知識を修得し、児童生徒へ食に関する指導ができるようになる。		
受 講 の 留 意 点	食生活と食文化および地域について広く関心を持ち、栄養教諭を目指すものとしての自覚と自らの課題を持ち授業に臨んでほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習をし食文化継承、行事食、地場産品を活用することの意義について理解する。 アクティブ・ラーニングの内容 ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・地場産物について調べ発表する。(G,W) ・模擬授業の発表会に向け、学生自身が作成した献立・学習指導案についてグループ・ディスカッションを行う。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (シラバス説明)、日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況 4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況 5 家庭における食の変遷 6 学校給食の変遷 7 地場産物と食に関する指導 8 地場産物と学校給食①北海道の地場産物 9 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物 10 演習①関心のある地域の地場産物調べ 11 演習②給食における地場産物の活用 (学校給食献立作成) (学校給食衛生管理基準) 12 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える (地場産物活用の授業づくり) 13 演習④地場産物を用いた給食を教材として活用する授業の指導案作成 14 地場産物を用いた給食における食に関する指導の模擬授業 (1) 発表会 (前半グループ) 15 地場産物を用いた給食における食に関する指導の模擬授業 (2) 発表会 (後半グループ) 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む
	復習	90 分	講義内容を振り返りノートにまとめる
	* 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。		

成績評価方法	提出物提出状況（30点）、試験（70点）により総合的に行う。	
	成績の評価基準	
	5	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。地場産物を生きた教材として活用した食に関する指導の授業づくりができる。食育の視点と教科目標を連携させた学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
	4	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。地場産物を生きた教材として活用した学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
	3	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。地場産物を生きた教材として活用した学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
	2	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。地場産物を生きた教材として活用した学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。
1	日本の食生活の変遷や現状について理解し地場産物を用いた学校給食の献立作成ができる。	
教科書 （購入必須）	文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』（東山書房） 文部科学省『小学校学習指導要領』（東京書籍） 文部科学省『中学校学習指導要領』（東京書籍） 金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年	
参考書 （購入任意）		

科 目 名	食教育指導論		
科 目 名 (英 語)	Food Education Teaching Theory	シラバスNo.	250050160
担 当 教 員 名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を広く横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法技法等を修得させる科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見ることができるようになる。 学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得し児童生徒と保護者・地域への食に関する指導が行えるようになる。		
受 講 の 留 意 点	栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるため、予習復習を充分に行い、積極的に取り組んでほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>栄養教諭として各自のテーマをもつことができるよう知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。</p> <p>学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・個別的な相談指導を G.W で演習する。 ・模擬授業の発表会に向け、学生自身が作成した献立・学習指導案についてグループ・ディスカッションを行う。 		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性 2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開 3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進 4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価 5 食に関する指導の教育理論と技術、新学習指導要領（2027） 6 栄養教諭の職務の実際（1）学校における職務内容（校務分掌） 7 栄養教諭の職務の実際（2）調理場における職務内容（衛生管理） 8 食に関する指導と学校給食の管理を一体のもとして行う職務の実際 9 給食時間における食に関する指導の授業づくり 10 教材研究（媒体・ICT教材など）、指導案作成 11 給食を教材として活用する授業の指導案作成（1）教科目標と会に関する指導 12 給食を教材として活用する授業の指導案作成（2） 13 給食における食に関する指導の模擬授業（1）発表会（前半グループ） 14 給食における食に関する指導の模擬授業（2）発表会（前半グループ） 15 まとめ 		

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	「食に関する指導の手引き」の関係する章と配布資料を読み込む
	復習	90分	講義内容を振り返りノートにまとめる
	* 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。		
成績評価方法	提出物提出状況（30点）、試験（70点）により総合的に行う。		
	成績の評価基準		
	5	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科目標を連携させた学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。	
	4	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科目標を連携させた学習指導案指導案を作成できる。	
	3	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科を連携させた学習指導案指導案を作成できる。	
	2	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、学校給食を教材とした学習指導要案を作成できる。	
1	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解できる。		
教科書 (購入必須)	文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』（東山書房） 『小学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月）』文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月—平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版 『栄養教諭論—理論と実際—4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領〈平成29年3月告示〉』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月）』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月）』文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）』文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）』文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月—平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版		
	参考書 (購入任意)		

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導		
科 目 名 (英 語)	Teaching Practice of Nutrition Teacher : Pre- and Post-Guidance	シラバスNo.	250050170
担 当 教 員 名	黒河 あおい		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位
開 講 時 期	通年	必修選択	開 講 形 態 演習
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	栄養教諭としての経験を持つ教員が、事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し実習に必要な知識や技術を確実なものにできるように指導し、事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要のある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにできるように指導する科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	2.幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、教育実習に必要な知識や技術を確実に身につけることができる。 事後指導では、教育実習を通して学んだものから自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要のある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにすることができる 		
受 講 の 留 意 点	<p>栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。</p> <p>また、栄養教育実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの内 容	<p>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。</p> <p>また、児童・生徒についての食に関しての課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。</p> <p>実習校での研究授業の準備を行う。(媒体作成など)</p> <p>事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。</p>		
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習者が模擬授業の練習時、他学生は児童生徒として参加する。 		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：栄養教育実習の意義、目的、内容 2 栄養教育実習のための準備と心得 3 模擬授業・媒体作成 4 模擬授業・媒体作成 5 模擬授業 6 模擬授業 7 実習ノート整理・課題の明確化 8 栄養教育実習報告会 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	授業作り準備
	復習	90 分	模擬授業の反省・修正
成 績 評 価 方 法	<p>提出物（50点）、模擬授業（50点）の内容などから総合的に評価する。</p> <p>成績の評価基準</p>		
	5	<p>栄養教育実習の意義や目的を理解し教育実習に必要な知識や技術を確実に身につけ研究授業に向けての準備（学習指導案・媒体作成）ができ、教育実習を通して学んだものから自分の課題を明確化し、今後さらに修得すべき点を見つけることができる。</p>	

	4	栄養教育実習の意義や目的を理解し教育実習に必要な知識や技術を確実に身につけ研究授業に向けての準備（学習指導案・媒体作成）ができ、教育実習を通して学んだものから自分の課題を明確化することができる。
	3	栄養教育実習の意義や目的を理解し研究授業に向けての準備（学習指導案・媒体作成）ができ、教育実習を通して学んだものから自分の課題を明確化することができる。
	2	研究授業に向けての準備（学習指導案・媒体作成）ができ、教育実習を通して学んだものから自分の課題を明確化することができる。
	1	研究授業に向けての準備（学習指導案・媒体作成）ができ、教育実習の報告ができる。
教科書 （購入必須）	栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。	
参考書 （購入任意）		

科 目 名	栄養教育実習				
科 目 名 (英 語)	Teaching Practice of Nutrition Teacher		シラバスNo.	250050180	
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択		資 格 要 件	教職(栄養):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実栄養教諭としての経験を持つ教員が、実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解させ、実習校指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行い、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解させるための科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	2.幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。				
学 修 到 達 目 標	教育実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解できる。指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行うことができる。 また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。				
受 講 の 留 意 点	教育実習に必要な準備を整えて臨むこと。 健康管理に十分に留意して実習に専念すること。 実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。 また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。				
	アクティブ・ラーニングの内容 ・研究授業をはじめ児童生徒や教職員との関わり総て。				
授 業 の 計 画	1 学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解 2 児童および生徒への個別的な相談、指導の実習 3 児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習 4 食に関する指導の連携・調整の実習 5 研究授業の実施・事後研修				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	実習日程表に沿った翌日の実習準備		
	復習	分	実習内容と反省を実習ノートに記載		
	*実習ノートは毎日記載後、指導担当教諭へ提出する。				
成 績 評 価 方 法	実習校による「実習評価票」、出席状況、実習ノート等の提出物などから総合的に評価する。				
	成績の評価基準				
	5	学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解し研究授業を実施できる。さらに「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。			
	4	栄養教諭の職務や役割について理解し研究授業を実施できる。さらに「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。			
	3	学校教育に対する理解と認識を深め、研究授業を実施できる。さらに「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解できる。			
	2	学校教育に対する理解と認識を深め、研究授業を実施できる。			
1	研究授業を実施できる。				

教科書 (購入必須)	栄養教育実習日誌 (担当教員作成) 教育実習の手引き (第6版) 学術図書出版社 教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	教育実践演習（栄養教諭）		
科 目 名（英 語）	Practical Seminar for the Teaching Profession :For Nutrition teacher	シラバスNo.	250050190
担 当 教 員 名	黒河 あおい ・ 小西 二郎		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	後期	必修選択	資格要件 教職（栄養）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	【栄養】栄養教諭としての経験を持つ教員が、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させ、さらに現役の校長・学級担任・特別支援などの教員をゲストスピーカーとして招き実務についての知識を修得させる。		
対応する ディプロマ・ポリシー	2.幅広い教養と栄養に関する専門的知識および技術に基づいて、自らが課題を発見し、課題解決に主体的に取り組む力を身につけている。 4.地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 6.児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認することができる。このような学びを通じて、学生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を身に付ける。		
受 講 の 留 意 点	栄養教育実習などの振り返りを生かして進める。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等（栄養教諭）の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。</p> <p>【栄養】教育現場から教員・校長・栄養教諭などにゲストスピーカーとして講義していただく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後の振り返り内容について次の授業開始時に意見交換を行う。 ・ゲストスピーカーの講義後 GW で意見交換を行う。 		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職論 教員の職務内容について振り返る（合同） 2 教職論 授業技術と教員の姿勢（合同） 3 教職論 生徒指導の現局面（合同） 4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由（合同） 5 学級経営 校務分掌と教職員の協働(栄養) 6 学級経営 学級づくりの実践（栄養） 7 学校給食管理 学校現場（共同調理場を含む）見学・調査（栄養） 8 学校給食管理 講義・グループ討論（栄養） 9 学習指導 食に関する指導の全体計画・年間指導計画（栄養） 10 学習指導 教材研究と指導案（栄養） 11 学習指導 授業研究・模擬授業（栄養） 12 児童・生徒指導 個別的な相談、指導・特別支援の食に関する指導（栄養） 13 生徒指導 ケーススタディ（栄養） 14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携（栄養） 15 教職論 教員の使命・責任——「教育における自由」に着目して考える 		

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	授業計画に沿って指示された資料等を読み込む
	復習	90分	配布資料に沿って授業を振り返りレポートを記載
	* 毎回講義時に配布する資料最終ページに予習・復習について内容を記載する。		
成績評価方法	振り返り提出状況 (30点) GW 参加状況 (30点) レポート (40点) により総合的に行う。		
	成績の評価基準		
	5	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科目標を連携させた学習指導要案を作成でき、模擬授業を行える。	
	4	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科目標を連携させた学習指導案指導案を作成できる。	
	3	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、食育の視点と教科を連携させた学習指導案指導案を作成できる。	
	2	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解でき、学校給食を教材とした学習指導要案を作成できる。	
1	食に関する指導の全体計画における栄養教諭の役割が理解できる。		
教科書 (購入必須)	なし (授業毎に教員作成資料を配布)		
参考書 (購入任意)			

科 目 名	倫理学		
科 目 名 (英 語)	Ethics	シラバスNo.	250050200
担 当 教 員 名	古牧 徳生		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>主要な倫理説の趣旨を自分の言葉で説明できること。そして全体的に見たとき、倫理は超人間的なものから個人的、即物的なものになっていく傾向にあることを理解すること。やがて君は日常生活が倫理説のぶつかり合いに満ちていることを実感するだろう。</p>		
受 講 の 留 意 点	<p>とにかく道徳とか倫理と聞くと非常に堅苦しい響きがあるため、一般の受けは哲学以上に芳しくない。だが現実の生活に直結しているのだから、本当は哲学の中でも一番わかりやすい分野である。また科学がこれからも発展していくなかで、哲学の中で生き残れる分野は実践哲学(倫理学とか政治哲学)であろうから、自分自身の問題として考えながら聞いてほしい。また聞いた後で自分の現実を考えてほしい。配布した資料は授業の後に再読するように。それでも不明な点があればメールで質問するように。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>人間は「善い」とか「立派」といった価値を意識して生きている。そうした生き方をするのはなぜなのか、いかにすれば善い生き方ができるのか、などを論じる学問が倫理学である。各人の倫理観は違うが、それぞれ自分なりに善さを求めていることは変わらないから、ここで一度くらいは、価値に基づいて生きること、つまり道徳を考えてみよう。本授業では西洋の哲学者たちの代表的な倫理思想を見ていくことで、人間のあるべき姿があるのか、これからの社会はどうあるべきか、など考えていこう。</p> <p>内容は大別して四つに分けられる。時代順にまず(1)古代の徳の倫理説ならびにキリスト教倫理を見たあと、(2)功利主義へと至る近世イギリスの一連の道徳感覚説を一つずつ見ていこう。次にそれと対比する形で(3)カントの倫理説と価値倫理を見てみよう。それから(4)進化倫理の主張を見ていこう。</p>		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ピュシスとノモス 2 アリストテレス 3 快樂主義と禁欲主義 4 キリスト教倫理 5 社会契約論 6 利己心と利他心 7 普遍的仁愛と道徳感情 8 功利主義 9 カント(1) 10 カント(2) 11 価値倫理 12 進化倫理(1) 13 進化倫理(2) 14 進化倫理(3) 15 まとめ 		

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	
	復習	90分	配布された資料を現実の君と重ね合わせて読み直すこと
成績評価方法	受講者が数人程度なら30分程度の口頭試問をする。そうでなければ期末試験（100点満点）。		
教科書 （購入必須）	なし。パワーポイント用の資料を毎回配布する。		
参考書 （購入任意）	一応、参考書として図書館にある訳書をあげておく。『現実をみつめる道徳哲学』『ダーウィンと道徳的個体主義』『倫理学に答えはあるか』『卓越の倫理』『哲学のアポリア』 何よりも佐倉統『進化論の挑戦』角川選書をお勧めする。		

科 目 名	公民科指導法 I		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	250050210
担 当 教 員 名	堂徳 将人		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	開 講 形 態 講義 資 格 要 件 教職(高公):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立高校地歴・公民科教諭としての生徒への指導、道教委指導主事や道立高校管理職として公民教育担当教員への指導・助言、大学教職課程担当教員としての学生への指導、北海道公民教育学会や日本公民教育学会での教育研究、主権者教育アドバイザーの経験を活かし、教育の現状と課題を明確にしつつ、課題解決への考察を深める。		
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>(1) 公民科の教育目標、育成を目指す資質・能力を概観し、学習指導要領に示された公民科及び公民科各科目の目標や内容、内容構成等について説明できる。</p> <p>(2) 公民科各科目の個別の学習内容について、指導上の留意点・指導方法・評価方法などの基本的な考え方や具体的な実践方策を理解している。</p> <p>(3) 公民科の背景となる学問領域との関連を理解し、望ましい教育課程の編成・実施や教材研究に活用することができる。</p> <p>(4) 公民科が抱える今日的な課題について理解するとともに、発展的な学習内容について探求し、学習指導の改善方策について実践的に考察することができる。</p>		
受 講 の 留 意 点	予習・復習については、その都度指示する。テキストや配布資料等は必ず持参すること。主体的・意欲的な授業参加を期待する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	公民教育の意義と役割について理解し、個別最適化された学びと協働的な学びとの関係について考えながら、年間指導計画・内容・方法などについて検討する。		
	アクティブ・ラーニングの内容 PBL 型の講座とし、グループワークや ICT 活用などを図る。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公民科の意義と役割 NO1 (か)イ)入、現代社会の特質と公民的な資質・能力の育成) 2 公民科の意義と役割 NO2 (公民教育の歴史の変遷、改正教育基本法の目標と公民科) 3 学習指導要領 (平成 21 年告示と平成 30 年告示における公民科の目標・内容・内容構成) 4 学習指導要領の改訂の基本方針と「公民科」及び「公民科各科目」の改善の要点 5 「令和の日本型学校教育」と公民教育の改善の視点 6 「政治・経済」の目標・内容と指導の在り方 (年間指導計画の作成) 7 「政治・経済」の指導上の留意点と評価の在り方 (単元指導計画の作成、発表、研究協議) 8 「倫理」の目標・内容と指導の在り方 (年間指導計画の作成) 9 「倫理」の指導上の留意点と評価の在り方 (単元指導計画の作成、発表、研究協議) 10 「公共」の目標・内容と指導の在り方 (年間指導計画の作成) 11 「公共」の指導上の留意点と評価の在り方 (単元指導計画の作成、発表、研究協議) 12 公民科教育におけるクロスカリキュラムの意義と役割(演習) 13 公民科教育におけるクロスカリキュラムの実践計画 (調査・発表、研究協議) 14 公民科における主体的・対話的で深い学びを求めて (調査・発表、研究協議) 15 定期試験 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	事前提示された学習課題を把握し、授業参加のための準備を行う。
	復習	90 分	授業を通じた学習課題に対して、主体的に探究し、解決方策をとりまとめる。 (調査、研究、レポート、発表など)

成績評価方法	<p>評価は定期試験の他、課題プリントへの取り組み、年間指導計画の作成や単レポート、調査・発表や研究協議・演習への参加等をもとに総合的に行う。</p> <p>100点満点（授業参加態度 10%、試験60%、レポート 30%）</p>
教科書 (購入必須)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 堂徳将人編著『高等学校 ICT で実現する個別最適な学び・協働的な学び』学事出版 2023 年 ○ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍 2018 年（平成 30 年）
参考書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 堂徳将人著『公民教育の新展開』学事出版 2011 年（授業時に配布する） ○ 日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』第一学習社 2019 年 ○ 文部科学省検定済み教科書（公民科各科目）

科 目 名	公民科指導法Ⅱ		
科 目 名 (公 民)		科目ナンバリング	250050220
担 当 教 員 名	堂徳 将人		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	道立高校地歴・公民科教諭としての生徒への指導、道教委指導主事や道立高校管理職として公民教育担当教員への指導・助言、大学教職課程担当教員としての学生への指導、北海道公民教育学会や日本公民教育学会での教育研究、主権者教育アドバイザーの経験を活かし、教育の現状と課題を明確にしつつ、課題解決への考察を深める。		
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>(1) 公民科に期待される新たな役割と課題の認識をもとに、新しい時代に求められる公民科教育の在り方について、理論と実践の両面から理解している。</p> <p>(2) 生徒の実態に応じた授業の重要性とともに、公民科各科目の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活かすことができる。</p> <p>(3) 学習指導案の構成を理解し、公民科各科目の具体的な授業を想定した学習指導案を作成するとともに、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p> <p>(4) 公民科における実践研究の動向を把握し、授業設計及び授業実践の向上に取り組むことができる。</p>		
受 講 の 留 意 点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容などについて、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に授業に参加することを期待する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	公民科指導法Ⅰで培った資質・能力をもとに、理論と実践の往還の中で授業者としての実践的な力量を高める。模擬授業の実践を中心とする。		
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>ICTの活用、主体的・対話的で深い学びを模擬授業で活かすことができるよう取り扱う。また、受講者間で改善・充実の方策を協議しつつ、実践的な指導力の向上を目指す。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 「公民科」への新たな期待（主権者教育の充実に向けて）（模擬選挙の指導計画の作成） 2 新しい時代に求められる公民の資質（公共と社会を形成する自立的な主体、ESDの考察） 3 模擬授業計画の策定（生徒の認識・思考・学力等に応じた授業計画の策定、情報機器及び教材の効果的な活用法）（演習） 4 学習指導案の策定 NO1（単元指導計画、本時の目標・内容・指導方法・評価）（演習） 5 学習指導案の策定 NO2（導入・展開・整理と指導上の留意点）（演習） 6 「政治・経済」の授業設計と指導の在り方（学習指導案の作成、発表、研究協議） 7 「政治・経済」の指導と評価（模擬授業の実施と自己・相互評価）（質疑応答、研究協議） 8 「倫理」の授業設計と指導の在り方（学習指導案の作成、発表、研究協議） 9 「倫理」の指導と評価（模擬授業の実施と自己・相互評価）（質疑応答、研究協議） 10 「現代社会」「公共」の授業設計と指導の在り方（学習指導案の作成、発表、研究協議） 11 「現代社会」「公共」の指導と評価（模擬授業の実施と自己・相互評価）（質疑応答、研究協議） 12 模擬授業を振り返って（授業改善の方策）（研究協議・レポート作成） 13 「公民科」における授業改善の視点（主体的・対話的で深い学びを重視した指導の方策） 14 「公民科」における実践研究の動き（情報機器及び教材の効果的活用の先導的な実践） 15 「公民科」における「社会に開かれた教育課程」づくりを求めて（研究協議） 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	事前提示された学習課題を把握し、授業参加のための準備を行う。
	復習	90分	授業を通じた学習課題に対して、主体的に探究し、解決方策をとりまとめる。（調査、研究、レポート、発表など）

成績評価方法	評価は定期試験の他、課題プリント、学習指導案の作成、模擬授業の実施、模擬授業の振り返りに行う研究協議、自己評価表・相互評価表の作成、レポート作成、調査・発表、演習への参加等をもとに総合的に行う。(試験 10%、模擬授業指導計画 30%、授業参加・研究協議など態度 540%、ポートフォリオ 20%)
教科書 (購入必須)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 堂徳将人編著『高等学校 ICT で実現する個別最適な学び・協働的な学び』学事出版 2023 年 ○ 『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍 2018 年(平成30年)
参考書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 堂徳将人著『公民教育の新展開』学事出版 2011 年(授業時に配布する) ○ 日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』第一学習社 2019 年 ○ 文部科学省検定済み教科書(公民科各科目)

科 目 名	福祉科教育法 I		
科 目 名 (英 語)	Methods of Teaching Social Welfare I	シラバスNo.	250050230
担 当 教 員 名	大坂 祐二		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	開 講 形 態 講義 資 格 要 件 教職 (高福) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対応する ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	高等学校における福祉教育や教科「福祉」の意義と目標・内容を理解する。国民的課題としての社会福祉を青年期に学ぶ意義について考察し、授業設計に活用することができる。		
受 講 の 留 意 点	高校福祉科の多くは、介護福祉士の資格取得をめざす課程です。福祉科の高校になじみがない人も多いと思いますが、介護技術など一部をのぞけば多くは皆さんが経験してきた授業と大きな違いはありません。授業の前半では高校福祉科がどんなところかを紹介します。「福祉科の目標と内容」は、該当する科目の指導要領を読んだうえで授業に臨んでください。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	高等学校の新しい学習指導要領が 2022 年度から年次進行で実施されています。授業では学習指導要領や介護福祉士養成カリキュラムの改定の経過もふまえながら、新しい指導要領の要点について学びます。		
	アクティブ・ラーニングの内容 (1)自身が高校までに体験した福祉に関わる学習をふりかえり、高校生が福祉を学ぶ意義を考える、 (2)単元を選び指導案を作成する。作成した指導案を相互に検討・評価する。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科「福祉」創設の意義と福祉教育の役割 2 福祉人材問題と高校福祉科 一士・士法改正と学習指導要領改訂の経過 3 青年期における「福祉の学び」 一私の福祉学習体験をふりかえる 4 高等学校における福祉教育の全体像 5 福祉科の目標と内容 ①社会福祉基礎 (1) 社会福祉の理念と意義 6 福祉科の目標と内容 ①社会福祉基礎 (2) 私たちの生活と福祉の関わり 7 福祉科の目標と内容 ②介護福祉基礎 8 福祉科の目標と内容 ③コミュニケーション技術 9 授業の構成と展開 (1) 指導案には何を書くか 10 福祉科の目標と内容 ④介護過程 11 授業の構成と展開 (2) 指導案の発表 12 授業の構成と展開 (3) 指導案の検討 13 福祉科の目標と内容 ⑤生活支援技術 14 福祉科の目標と内容 ⑥こころとからだの理解 15 福祉科の目標と内容 ⑦福祉情報／普通教科との連携 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	学習指導要領の該当箇所ないし事前に指示した箇所を読んでおく。
	復習	90 分	授業をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。
成 績 評 価 方 法	レポート試験 (70 点) および指導案等の提出物 (30 点)		

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 福祉編』海文堂出版、2019 年</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>藤田久美編著『アクティブラーニングで学ぶ福祉科教育法』一藝社、2017 年 保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年 大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年</p>

科 目 名	福祉科教育法Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Methods of Teaching Social Welfare Ⅱ	シラバスNo.	250050240
担 当 教 員 名	大坂 祐二		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義 資 格 要 件 教職(高福):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	福祉科教育法Ⅰをふまえて社会福祉の理念、制度、支援技術等の効果的な指導方法について考察する。模擬授業やグループワークを通して具体的な授業を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
受 講 の 留 意 点	グループワークや模擬授業を取り入れて行うので、受講生の積極的な参加を求める。授業のふりかえりや模擬授業の指導案などの課題を課すので、期限までに提出すること。 履修者数や模擬授業を行う人数によって授業の計画を変更することがある。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教科「福祉」は、介護実習をはじめとする体験的な学習など多様な方法で展開される。それらの方法について理解を深める。 アクティブ・ラーニングの内容 (1) 模擬授業を実施し、相互に検討・評価を行う。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科「福祉」における授業とその方法 2 福祉科の目標と内容 ⑧介護実習 3 福祉科の目標と内容 ⑨介護総合演習 4 教材研究とは 5 教材研究から指導案へ 6 授業の展開と教材・教具(1)板書、ワークシートなど 7 授業の展開と教材・教具(2)ICTの活用、オンライン授業 8 体験学習・ボランティア学習の指導 9 訪問・交流・行事の指導 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 模擬授業(3) 13 模擬授業(4) 14 教科「福祉」における評価 15 教科「福祉」から福祉教育へ 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	学習指導要領の該当箇所ないし事前に指示した箇所を読んでおく。
	復習	90分	授業をふりかえり、要点や考えたことをノートなどにまとめる。
成 績 評 価 方 法	模擬授業の発表内容と提出課題(60点)およびレポート試験(40点)		

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>文部科学省『高等学校指導要領（平成 30 年告示）解説 福祉編』海文堂出版、2019 年</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>藤田久美編著『アクティブラーニングで学ぶ福祉科教育法』一藝社、2017 年 保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010 年 大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002 年</p>

科 目 名	教育実習事前事後指導		
科 目 名 (英 語)	Pre- and Post- Guidance for Teaching Practice	シラバスNo.	250050250
担 当 教 員 名	小西 二郎・石川 貴彦		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必修選択	資格要件 教職(高公・高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	これまでの教職課程の学びを学校現場で実践するための準備を十分行い、生徒や教師から様々なことを吸収できる体制を作ることができる。また、教育実習の経験を踏まえて自ら成長できる教師を目指すために自己課題を設定し、その達成状況について内省することができる。		
受 講 の 留 意 点	1～3年次まで開講された教職必修科目をすべて修得していることが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>教育実習に必要な事項を確認し、各自の実習課題を明確にすることを目的として、事前指導で実習の取り組み方や授業方法について学習する。また、受講者に模擬授業を課し、指導案の流れや発問、板書技術などを検討する。そして、教育実習で得られた経験や学び、自らの今後の課題を受講者間で共有することを目的として事後報告会を開催し、各発表を通じて実習課題の達成状況について意見交換を行う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 事前指導では指導案作成、模擬授業を行い、事後指導では報告会での発表を行う。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の目的と意義、自己課題の設定 2 教育実習の内容と準備 3 実習日誌の書き方 4 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（1） 5 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（2） 6 教育実習を見据えた授業実践・検討（模擬授業）（3） 7 教育実習後の意見交流（実習報告会）（1） 8 教育実習後の意見交流（実習報告会）（2） 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	指導案作成や教材づくり、授業練習を行い、模擬授業に向けた準備を進める。
	復習	90分	講義内容を振り返り、教育実習に向けての準備を進める。
成 績 評 価 方 法	実習前の取組状況（指導案・教材作成、模擬授業）（50%）、教育実習事後レポートおよび実習報告（50%）		
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習の手引き（第7版）、学術図書出版社、2019年 教育実習日誌（第4版）、学術図書出版社、2019年		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	教育実習		
科 目 名 (英 語)	Teaching Practice	シラバスNo.	250050260
担 当 教 員 名	小西 二郎・大坂 祐二・石川 貴彦		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	資格要件 教職(高公・高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	高等学校の教育実習において、 ① 大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる。 ② 授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる。 実習全体を通じて自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりすることができる。		
受 講 の 留 意 点	1～3年次まで開講された教職必修科目をすべて修得していることが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	教育の実際を学び、学級経営や授業などの教育実践ができる力を身に付けることを目的として、各学校の実習担当教諭の指導のもと、観察・参加・授業実習を中心に生徒指導おとび教科指導に関する内容を実践する。 アクティブ・ラーニングの内容 学級担任、教科指導などを中心に、実習生が主体的に活動に取り組む。		
授 業 の 計 画	1 教育実習（第1週） 実習校のプログラムによるが、概ね以下の内容になる 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察 等 2 教育実習（第2週） 学級経営、生徒指導、教材研究、授業実習、研究授業、離任式 等		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	0分	教育実習における自己課題を設定し、教科指導や生徒指導、学級経営に対する準備を進める。
	復習	0分	実習から得た学びを振り返りながら自己課題の達成状況を評価し、翌日の実習につなげていく。
成 績 評 価 方 法	教育実習評価表による学習指導、生活指導、実習態度の観点別評価（100%）		
教 科 書 (購 入 必 須)	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて各自準備しておくこと。		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	教職実践演習（高）		
科 目 名（英 語）		シラバスNo.	250050270
担 当 教 員 名	大坂 祐二・石川 貴彦・小西 二郎		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	教職(高公・高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。		
受 講 の 留 意 点	教育実習などの振り返りを生かして進める。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ○ミニレポートに対する応答、模擬授業</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職論 教員の職務内容について振り返る 2 教職論 授業技術、教員の姿勢 3 教職論 生徒指導の現局面 4 教科指導 教材研究と指導案① 5 教科指導 教材研究と指導案② 6 教科指導 授業研究・模擬授業① 7 教科指導 授業研究・模擬授業② 8 生徒指導 ケーススタディ① 9 生徒指導 ケーススタディ② 10 学校経営 校務分掌と教職員の協働 11 学級経営 学級づくりの実践 12 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由 13 社会性・対人関係 保護者・地域との連携 14 生徒指導 ケーススタディ③ 15 教職論 教員の使命・責任 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	各担当教員の指示による。
	復習	90分	各担当教員の指示による。
成 績 評 価 方 法	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。		
参 考 書 (購 入 任 意)	各項目に応じて、適宜指示する。		

科 目 名	知的障害心理・生理・病理		
科 目 名 (英 語)	Psychology, Physiology, and Pathology for the Children with Intellectual Disability	シラバスNo.	250050280
担 当 教 員 名	真名瀬 陽平		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	1 幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	知的障害における概要を理解し、そのうえで、アセスメントや実際の支援・指導について理解することを目標とする。具体的には、知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特徴、それらの相互作用について理解する。加えて、生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性や、家庭や関係機関と連携した指導・支援について理解する。		
受 講 の 留 意 点	本科目は、特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義です。そのため、特別支援教育、特に学校現場をイメージしながら積極的に学んでください。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	知的障害における医学的診断や基準、カテゴリーについて理解をしたのち、適応行動・知的能力についてアセスメント方法を学びつつ、知的障害の知的能力・適応行動・認知の特性について理解を深めていきます。その後、家庭・医療機関など関係機関と連携することの重要性を学び、学校・家庭・社会において知的障害者が抱えやすい困難さとそれに対する指導・支援について、事例を交えた学習を行います。		
	アクティブ・ラーニングの内容 毎回の講義において小レポートを課し、教員からフィードバックをすることで能動的な学修への参加を促します。また、講義内容に応じて個人発表やグループ・ワークなどを積極的に行います。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 知的障害とは (AAIDD、DSM-5-TR、文部科学省) 2 知的障害の発生要因と特徴 (1) 病理型知的障害 3 知的障害の発生要因と特徴 (2) 生理型知的障害、心理・社会型知的障害 4 知的障害の発生要因と特徴 (3) AAIDD による包括的な枠組みに基づく相互作用の理解 5 適応行動のアセスメント (1) Vineland- II の概要 6 適応行動のアセスメント (2) Vineland- II の結果と解釈 7 適応行動のアセスメント (3) S-M 社会生活能力検査第3版の概要、結果と解釈 8 知的能力のアセスメント (1) 田中ビネーVの概要 9 知的能力のアセスメント (2) 田中ビネーVの結果と解釈 10 知的能力のアセスメント (3) WISC-5 の概要、結果と解釈 11 家庭・医療機関と連携した支援・指導の必要性と在り方 12 学校における知的障害のある生徒の学習面における困難さと指導・支援 13 学校における知的障害のある生徒の生活面における困難さと指導・支援 14 家庭における知的障害のある生徒への困難さと指導・支援 15 社会における知的障害者の心理的支援 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	次回の講義の内容について予告をするので、その内容についてインターネットや書籍を利用して調べ、要点をまとめたり、疑問をもってください。
	復習	90分	毎回の講義において課題を課しますので、必ず期日までに取り組んでください。
成 績 評 価 方 法	毎回の授業において課される課題 (50%)、定期試験 (50%) で評価します。		

教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、授業実施時に資料を配布します。
参考書 (購入任意)	知的障害児の心理・生理・病理[第2版]: エビデンスに基づく特別支援教育のために (勝二博亮編著、北大路出版)

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理			
科 目 名 (英 語)	Psychology, Physiology, and Pathology of Person with Physical Handicaps	シラバスNo.	250050290	
担 当 教 員 名	高橋和明、田中肇			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択		資 格 要 件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。			
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由(運動障害)の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴を理解し、配慮や留意すべき内容等について説明できる。 ・ 人間の身体の仕組み、定型発達(運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等)を理解し、肢体不自由(運動障害)がある場合の障害特性が説明できる。 ・ 肢体不自由(運動障害)の子どもがいる家族の支援や医療機関との連携の大切さについて理解し、説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	肢体不自由教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	人間の身体の仕組み、乳幼児の定型発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由者の教育において出会うことの多い疾患の特性について病理学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援、関係機関の連携等について学習します。			
	アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 肢体不自由とは 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます / 肢体不自由という用語の成立について学習します 2 人間の身体の仕組み 人間の身体の基本的な仕組みについて仕組みについて学習します 3 定型発達 運動、知能、感覚機能、認知機能、心理等に関する定型発達について学習します 4 肢体不自由(運動障害)が発達に与える影響 肢体不自由(運動障害)があることによって発達にどのような影響があるかについて学習します。 5 肢体不自由者の心理的特性 肢体不自由者に見られる心理的特性について学習します。 6 脳性まひの理解と支援 脳性麻痺の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 7 二分脊椎の理解と支援 二分脊椎の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 8 筋ジストロフィーの理解と支援 筋ジストロフィーの病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 9 ペルテス病・骨系統疾患の理解と支援 ペルテス病・骨系統疾患の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます。 10 手足の先天奇形・関節拘縮症の理解と支援 手足の先天奇形・関節拘縮症の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます 			

	<p>1 1 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解と支援 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます</p> <p>1 2 重度・重複障害児の理解と支援 医療的ケア児、超重症児等を含む重度・重複障害児の病理面・生理面・心理面の特徴及び支援内容について学びます</p> <p>1 3 肢体不自由者のリハビリテーション 肢体不自由者に関連するリハビリテーションの内容や方法について学習します。</p> <p>1 4 肢体不自由者の家族の支援、関係機関の連携 肢体不自由者の家族の支援のあり方、関係機関の連携方法等について学習します。</p> <p>1 5 まとめ / 肢体不自由者を支援する際に大切なこととは 授業で学習した内容をもとに、肢体不自由者を支援する際に大切にしていきたいことについて考えます。</p>		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	シラバスを参考に教科書の関連箇所を読み、基礎的な内容を理解しておいてください。
	復習	90分	講義の内容についてノートを整理し、知識の定着を図ってください。 課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。
	第5回～第12回については、みなさんに教科書の内容について報告していただきます。		
成績評価方法	提示課題の取組状況(30点)、振り返りレポート(30点)、課題レポート(40点)として総合的に評価します。		
教科書 (購入必須)	「肢体不自由児の医療・療育・教育」(冲高司 編者、金芳堂)		
参考書 (購入任意)	肢体不自由児の教育〔新訂〕(川真健之助 長沼静夫 著, NHK 出版)		

科 目 名	病弱心理・生理・病理		
科 目 名 (英 語)	Psychology, physiology, and pathology of people with illness	シラバスNo.	250050300
担 当 教 員 名	下村 遼太郎・高橋 和明		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	資格要件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。		
対応する ディプロマ・ポリシー	多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている		
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。 ・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。 ・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。 		
受 講 の 留 意 点	病弱・身体虚弱教育に関する基本的な事項を学習する科目ですので、予習・復習を十分に行い、積極的に取り組んでください。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 課題解決のための方法や情報について学生間で意見交換を行う</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち (高橋担当) 授業の進め方、内容、評価方法等についてのオリエンテーションを聴きます ／病気の子どもの心理的状況について考えます。 2 健康、病気、障害の概念 (高橋担当) 健康、病気、障害の用語の概念について整理します。 3 病気・障害の受容とセルフケア (高橋担当) 病気や障害を受容する過程、セルフケアとの関係について学習します 4 病弱者・障害者の心理的特性 (高橋担当) 病弱者・障害者が有する心理的な特性について学習します 5 病弱者・障害者と家族の支援 (高橋担当) 病弱者・障害者の家族への支援について学習します 6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 (高橋担当) 病弱者・障害者及びその家族を支えるための他職種連携のあり方について考えます。 7 小児期の慢性疾患Ⅰ (ぜんそく・アレルギー等) (下村担当) 小児期のぜんそく・アレルギー等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 8 小児期の慢性疾患Ⅱ (腎臓病・心臓病等) (下村担当) 小児期の腎臓病、心臓病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 9 小児期の慢性疾患Ⅲ (糖尿病等) (下村担当) 小児期の糖尿病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 10 悪性腫瘍 (小児ガン、脳腫瘍等) (下村担当) 小児の悪性腫瘍の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 11 進行性筋ジストロフィー (下村担当) 小児期の筋ジストロフィー患者の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 12 てんかん、血友病、その他の疾患 (下村担当) 小児期のてんかん、血友病等の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。 		

	<p>13 心身症・精神疾患（下村担当） 小児期の心身症、精神疾患の病理面・生理面の特徴及び支援内容について学びます。</p> <p>14 病弱者の支援における今日的課題（高橋担当） 病弱・身体虚弱者に関する最近のデータや政策等から今日的課題について整理し、学習します</p> <p>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと（高橋担当） 授業で学習した内容をもとに、病弱・身体虚弱者を支援する際に大切にしていきたいことについて考えます。</p>		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	シラバスを参考に病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図ってください。
	復習	90分	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組んでください。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ、授業内で提示された参考文献等を参考にして、ノートを整理し、知識の定着を図ってください。
成績評価方法	下村授業担当分 50 点(定期試験)、高橋担当授業分 50 点(授業振り返りシート 20 点、提示課題の取組状況 10 点 課題レポート 20 点)として、2 名の教員の総合点(満点は 100 点)によって評価します。		
教科書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です		
参考書 (購入任意)	<p>特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理（小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一 編著、ミネルヴァ書房）</p> <p>病気がみえる vol.15 小児科(医療情報科学研究所 編、メディックメディア)</p> <p>イラストを見せながら説明する 子どもの病気とその診かた(金子堅一郎 編、南山堂)</p>		

科 目 名	障害児教育課程論		
科 目 名 (英 語)	Curriculum for handicapped child	シラバスNo.	250050310
担 当 教 員 名	矢口 明		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義 資 格 要 件 教職(特支): 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、教育課程や学習指導要領の重要性について、経験に基づく具体的な内容を盛り込み、理解を深めることができる。		
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。		
学 修 到 達 目 標	児童生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校の教育実践において、各学部間で系統性と一貫性がある教育課程の編成について理解することができる。授業改善とカリキュラムマネジメントの関連を理解することができる。		
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義であるため、知的障害以外の障害に関する学びと関連付けながら、教育課程に関する理解を深めていくことが望ましい。講義内容については、特別支援学校学習指導要領解説で確認すること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	視覚障害教育や聴覚障害教育から始まった「特殊教育」の時代から、現在の「特別支援教育」に至る過程を理解した上で、今後の展望を見通し、特別支援教育の理念を十分に理解しながら、知的障害の障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、改訂された学習指導要領に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と作成の際の留意点等について理解する。自立活動について、実態把握から指導計画の作成までの流れを学ぶ。特別支援学校の見学を通して、特別支援教育の現状を理解する、 リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害教育の専門性 2 特別支援学校の教育課程① 3 特別支援学校の教育課程② 4 教育課程と個別の指導計画の関連 5 個別の指導計画とカリキュラムマネジメント 6 学習指導要領改訂の変遷と意義 7 養護・訓練から自立活動への変遷の経緯と具体的な指導内容 8 学習指導要領の改訂のポイント① 小・中学部の教育課程 9 学習指導要領の改訂のポイント② 高等部の教育課程 10 各教科等を合わせた指導 11 重複障害者等に関する教育課程の取り扱い 12 見学予定の特別支援学校の特色と教育課程 13 特別支援学校の見学① (小中高等部設置校) 14 特別支援学校の見学② (高等部単独設置校) 15 見学のまとめ 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90分	
	復習	90分	個別の指導計画との関連を考えながら教育課程について考える。

成績評価方法	リアクションペーパーの記述内容（30点）、レポート（70点）で評価する。
教科書 （購入必須）	文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）上・下 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編
参考書 （購入任意）	

科 目 名	肢体不自由者教育課程論			
科 目 名 (英 語)	Curriculum Theory for Person with Physical Handicaps	シラバスNo.	250050320	
担 当 教 員 名	森田 隆行			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択		資 格 要 件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。			
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由教育の教育内容、指導方法等の現状や課題を整理して報告することができる。 ・ 特別支援学校(肢体不自由)の学習指導要領に提示されている教育課程、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について理解し、説明することができる。 ・ 肢体不自由者の実態に合わせた学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。 			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のために必要な必須の講義です。他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害等）の教育課程、指導法、心理学・生理学・病理学的知見等についても理解を深めておいてください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>文献研究を通して肢体不自由教育の現状や課題について理解を深めます。そのうえで、既習の学習指導要領、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について再学習を通して肢体不自由教育に関する知識の定着を図った後、模擬授業と授業研究を通して学習指導案の作成や授業方法、内容について、体験的に学びます</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 提示された課題について各自でまとめた後、受講生間でお互いに考えた内容について意見交換をします。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 肢体不自由教育とは 授業の進め方、評価方法等の概要を共有します。さらに、肢体不自由教育の概要を学習します 2 肢体不自由教育の歴史と現状 肢体不自由教育のこれまでの歩みと現状について学習します 3 肢体不自由教育の制度 特別支援教育の制度の中での肢体不自由教育の現状を学習します 4 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴） 肢体不自由教育の教育課程の特徴、類型等について学習します 5 個別の教育支援計画・指導計画の作成 肢体不自由者を対象とした個別の教育支援計画・指導計画の作成、意義等について学習します 6 肢体不自由教育の内容と指導法① 自立活動 自立活動について全体的に再学習した後、肢体不自由教育における自立活動の内容、指導方法等について学習します 7 肢体不自由教育の内容と指導法② 身体の動き 肢体不自由者の身体的特徴を整理し、自立活動における身体の動きの内容、実際の指導方法について学習します 8 肢体不自由教育の内容と指導法③ コミュニケーションの指導 肢体不自由者のコミュニケーションの特徴を整理し、自立活動におけるコミュニケーションの指導の内容、指導方法等について学習します 9 肢体不自由教育の内容と指導法④ 各教科の指導 肢体不自由者が各教科を学習する際の困難さ、支援の内容や方法等について考えます 			

	<p>10 肢体不自由教育の内容と指導法⑤ 体育等の指導 肢体不自由者の体育の授業における指導の内容、方法等について考えます</p> <p>11 肢体不自由教育の内容と指導法⑥ 重度・重複障害者の特性と配慮 肢体不自由教育が対象とする重度・重複障害者の特性や配慮事項等について考えます。</p> <p>12 肢体不自由教育の内容と指導法⑦ 重度・重複障害者の指導計画と実際の指導 肢体不自由教育が対象とする重度・重複障害者の特性を踏まえた指導計画を立て、具体的な指導方法や教材について考え、発表します。</p> <p>13 肢体不自由教育の内容と指導法⑧ キャリア教育・進路指導 キャリア教育、進路指導の基礎的事項を確認し、肢体不自由者におけるキャリア教育、進路指導の在り方について考えます。</p> <p>14 肢体不自由教育の動向と課題 肢体不自由教育が対象とする幼児児童生徒に関連する政策等の動向や課題等について整理し、学習します</p> <p>15 まとめ / 肢体不自由教育における専門性 授業全体を振り返り、肢体不自由教育における専門性について自身の考えをまとめます</p>		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	授業に関連する特別支援教育の基本的な用語や知識について整理し、理解しておく
	復習	90分	授業課題が出された時には、その課題に取り組む。全ての授業内容について、配布されたプリントや教科書を活用してノートにまとめ、知識の定着を図る
成績評価方法	振り返りレポート(30点)、提示課題の取組状況(30点)、課題レポート(40点)とし総合的に評価します		
教科書 (購入必須)	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部) ・特別支援学校高等部学習指導要領・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) <p>* その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します</p>		
参考書 (購入任意)	<p>特別支援教育概論(杉野学 編者、大学図書出版)</p> <p>* その他、講義内で適宜紹介します。</p>		

科 目 名	肢体不自由教育演習		
科 目 名 (英 語)	Practice of Teaching the Orthopedically Impaired	シラバスNo.	250050330
担 当 教 員 名	森田 隆行		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	資格要件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。		
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育の教育内容、指導方法等の現状や課題を整理して報告することができる。 ・特別支援学校(肢体不自由)の学習指導要領に提示されている教育課程、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について理解し、説明することができる。 ・肢体不自由者の実態に合わせた学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。 		
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、聴覚障害、視覚障害、発達障害等）の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>文献研究を通して肢体不自由教育の現状や課題について理解を深めます。そのうえで、既習の学習指導要領、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動等について再学習を通して肢体不自由教育に関する知識の定着を図った後、模擬授業と授業研究を通して学習指導案の作成や授業方法、内容について、体験的に学びます。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>①肢体不自由教育の動向を整理した文献兼研究レポートの作成と発表、及び意見交換</p> <p>②模擬授業指導案の作成・実施及び意見交換</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 授業の進め方 授業の概要、課題の内容、授業の進め方について説明をします 2 肢体不自由教育に関する動向の理解①文献検索の方法と実際 インターネットの論文検索サイト活用した文献検索方法を学習し、興味のある一論文について概要をまとめた報告書の作成方法を学習します 3 肢体不自由教育に関する動向の理解②文献検索の報告 前授業で作成した報告書について発表し、意見交換を行います 4 肢体不自由教育に関する研究動向の理解①文献研究レポートのまとめ方及び課題設定 肢体不自由教育に関する文献研究レポートの作成方法、報告の方法等について説明後、自身が調査する課題を設定します 5 肢体不自由教育に関する研究動向の理解②検索文献整理及び文献研究レポートの作成 設定した課題に合った文献の検索、収集及び文献研究レポートを作成します 6 肢体不自由教育に関する文献研究の実際③文献研究報告資料の作成 前授業に引き続き、文献研究レポートの作成及び発表資料を作成します 7 肢体不自由教育に関する文献研究の実際④文献研究の報告 文献研究レポートの概要について発表し、意見交換を行います 8 学習指導要領の理解① 肢体不自由の教育課程について 肢体不自由教育の教育課程について再学習します 9 学習指導要領の理解② 自立活動の目標及び内容について 自立活動の目標及び内容について、再学習します 10 学習指導要領の理解③ 個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係 個別の教育支援計画、個別の指導計画について再学習します 11 肢体不自由者を対象とした模擬授業①学習指導案の作成方法 肢体不自由者を対象とした授業の学習指導案の作成方法を学習します 		

	12	肢体不自由者を対象とした模擬授業②学習指導案の作成と模擬授業の準備 模擬授業に向けた学習指導案の作成及び教材作成等授業準備を行います	
	13	模擬授業演習①(振り返り、評価) 作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施後、意見交換を行います	
	14	模擬授業演習②(振り返り、評価) 作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施後、意見交換を行います	
	15	まとめ 15回の授業の振り返りとまとめを行います	
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	授業内容に関連する特別支援教育、肢体不自由教育に関する知識を整理する。研究レポートの作成・報告会資料・模擬授業の事前準備等を行う
	復習	90分	授業内で提示された課題について、取り組む。全ての授業後に、授業内で使用した資料や配布物の内容をノートにまとめ、知識・技術の定着を図る。
成績評価方法	文献検索及び文献研究課題(40点)、提示課題の取組状況(10点)、学習指導案(30点)、模擬授業(20点)として総合的に評価します。		
教科書 (購入必須)	適宜、資料配布及び視聴覚教材を提示します		
参考書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) ・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部) ・特別支援学校高等部学習指導要領・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) <p>** その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します</p>		

科 目 名	病弱教育学		
科 目 名 (英 語)	Education of people with illnesses	シラバスNo.	250050340
担 当 教 員 名	高橋 和明		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 講義
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容です。		
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱・身体虚弱教育の歴史の変遷について知り、病弱・身体虚弱教育の意義、主な対象疾患の特性や配慮事項等について説明できる。 ・病弱・身体虚弱教育の教育課程、教育内容、指導方法についての基本的視点について説明できる。 ・肢体不自由教育に必要な専門性について自身の考えをまとめ、説明できる。 		
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。その他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法についても理解を深めておいてください。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>病弱・身体虚弱教育の歴史を通して、病弱・身体虚弱教育が果たしてきた役割、病弱・身体虚弱教育の意義、ニーズや課題について学習をします。また、病弱・身体虚弱教育の対象としている主な疾患とその特徴について理解を図ります。さらに、病気の子どもに対する教育において実際に行われている支援内容や指導方法、配慮事項等についても学びます。このような授業を通して、病弱教・身体虚弱育に携わる教員に必要な専門性とは何か、を考えていきます</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 提示された課題について各自でまとめた後、受講生間でお互いに考えた内容について意見交換をします。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 病気とは 授業の概要を説明します。その後、病気の概念について学習します 2 病気の子どもの教育の歴史と現状 病気の子どもの教育の歴史的な流れ、現状について学習します 3 病気の子どもの多様な学び場 病気の子どもが学習する多様な場所や学習形態について学びます 4 学習指導要領を踏まえた指導① 特別支援学校学習指導要領の概要 特別支援学校学習指導要領の変遷、病弱・身体虚弱教育に関連する箇所を中心に、概要を確認する。 5 学習指導要領を踏まえた指導② 病気の状態に応じた指導の工夫と合理的配慮 学習指導要領の記載事項を確認しながら、病気の状態に合わせた学習指導の際の工夫点、病気の子どもの合理的配慮について考えます 6 各校における指導事例① 特別支援学校における教育課程、指導内容・方法 特別支援学校（病弱・身体虚弱）における教育課程、指導内容、指導方法について理解を図ります 7 各校における指導事例② 小・中学校等の特別支援学級における教育課程、 小・中学校等の特別支援学級（病弱・身体虚弱）指導内容、指導方法について理解を図ります 8 各校における指導事例③ 特別支援学校におけるセンター的機能 特別支援学校（病弱・身体虚弱）にて実施されているセンター的機能の内容、役割等について学習します 9 病気等の必要に応じた指導と配慮事項① ～悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患 悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患の病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します 		

	<p>10 病気等の必要に応じた指導と配慮② ～骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患 骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患の病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します</p> <p>11 病気等の必要に応じた指導と配慮③ ～腎疾患、循環器系疾患、てんかん 腎疾患、循環器疾患、てんかんの病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します</p> <p>12 病気等の必要に応じた指導と配慮④ ～心身症及び精神疾患 心身症及び精神疾患の病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します</p> <p>13 病気等の必要に応じた指導と配慮⑤ ～重症心身障害、医療的ケアが必要な子ども 重症心身障害、医療的ケアが必要な子どもの病理的・生理的・心理的内容を知り、それらの疾患を有する幼児児童生徒の教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します</p> <p>14 病気等の必要に応じた指導と配慮⑥ ～ターミナル期にある子ども ターミナル期にある子ども及び家族の心理的状況を知り、教育上の配慮事項、指導方法等について、事例を通して学習します</p> <p>15 まとめ / 病弱教育における専門性 授業全体を振り返り、肢体不自由教育における専門性について自身の考えをまとめます</p>		
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	シラバスを参考に教科書の関連箇所を読み、基礎的な内容を理解しておいてください。
	復習	90分	講義の内容についてノートを整理し、知識の定着を図ってください。課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。
成績評価方法	振り返りレポート(30点)、提示課題の取組状況(30点)、課題レポート(40点)とし総合的に評価します		
教科書 (購入必須)	特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携(全国特別支援学校病弱教育校長会 編著、ジアース教育新社) *その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します		
参考書 (購入任意)	特別支援教育概論(杉野学 編者、大学図書出版) *その他、講義内で適宜紹介します。		

科 目 名	視覚障害教育総論		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	250050350
担 当 教 員 名	外山 正一		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー			
学 修 到 達 目 標	<p>本講義では、視覚障害の概要、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法・評価法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに、視覚に障害がある児童生徒の自立と社会参加に向け、特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の概要を視覚器の構造・視機能の観点から指摘できる。また、児童生徒の眼疾患に関する健康管理や教育的配慮について説明できる。 2. 特別支援教育における視覚障害の状況を理解し、近代視覚障害教育の成立から現在までの視覚障害教育変遷の過程を説明できる。 3. 特別支援教育の制度の概要を理解し、視覚障害教育の制度上の特徴について説明できる。 4. 学習指導要領の概要を理解し、視覚障害教育における教育課程、指導計画、指導内容、指導方法、評価方法の特徴及び指導上の配慮事項について説明できる。 		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>視覚障害教育について理解を深め、指導内容や方法等を習得するために、以下の内容について学習を進めていく。特に点字や白杖体験、実物教材等を活用し実践的な内容を学んでいく。1. 視覚障害の概要及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法及び評価法</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 (体験的な学習の実施) ○白杖を使った歩行訓練 ○点字器を利用した点字の読み書き</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育における視覚障害教育 特別支援教育の概要 特別支援学校(視覚)及び特別支援学級の概要 通級による指導 重複障害教育 特別支援学校のセンター的役割 視覚障害児童生徒の就学と合理的配慮 特別支援教育への転換と北海道の視覚障害教育 2 視覚障害教育の歴史 近代視覚障害教育の成立 日本訓盲点字の完成 盲学校及び聾唖学校令 聾学校及び養護学校の義務制実施 3 視覚障害の概要と視覚管理 視覚障害の定義 視覚器の構造と視覚障害 視機能と視覚障害 眼疾患と教育的配慮 4 視覚障害教育における教育課程と指導計画 教育課程の意義 教育課程の編成と指導計画の作成 特別支援学校(視覚)における教育課程の特徴 視覚障害教育における自立活動の内容 個別の指導計画と教育支援計画 5 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅰ(盲児の指導) 盲児の触知覚の特性 点字の読み書きの指導 空間概念の指導 言葉と事物・事象の対応の指導 歩行の指導 盲教育の教材教具 盲教育における指導上の配慮事項 6 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅱ(弱視児の指導) 弱視児の視知覚の特性 弱視教育の教材教具 弱視教育における指導上の配慮事項 使用文字と弱視レンズの選定 LD児と視覚認知 7 視覚障害乳幼児の発達と支援及び視覚障害教育における評価法 視覚障害児の発達を規定する要因と発達の特徴 視覚障害児のアセスメントの基本 視覚障害児のアセスメントの方法及び記録 8 視覚障害教育における自立活動 		

授業の予習・復習 学修時間の割り当て	予習	90分	適宜指示する。
	復習	90分	適宜指示する。
成績評価方法	提示課題の取り組み状況（30%）、期末レポート（70%）		
教科書 （購入必須）	「新・視覚障害教育入門」（青柳まゆみ 鳥山由子 編著、ジアース教育新社）		
参考書 （購入任意）			

科 目 名	聴覚障害教育総論		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	250050360
担 当 教 員 名	庄司 和史		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必修選択	選択
		資 格 要 件	教職 (特支) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校 (聴覚障害) 教諭として実務経験のある教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目		
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	2.多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。		
学 修 到 達 目 標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、障害が及ぼす困難を改善・克服するための自立活動の展開、保育や教科指導等における実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。 アクティブ・ラーニングの内容：難聴が及ぼすコミュニケーションの障がいに関する疑似体験活動を実施し、グループでディスカッションを行う。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要の説明 聴覚障害の定義 (医学モデル、社会モデルの理解)、音声学の概要 2 聴覚の構造及び機能 聴覚障害の生理学及び病理学的理解 3 心理特性及び発達 疑似体験を通じた理解、聴覚障害が及ぼす言語・コミュニケーションの発達への影響 4 障害の早期発見と早期療育 新生児聴覚スクリーニングのシステム、医療等との連携、補聴器・人工内耳の装用支援と評価 5 教育課程の編成と指導法① 障害教育におけるカリキュラムマネジメント、聴覚障害の特性に応じた各領域、各教科の指導 6 教育課程の編成と指導法② 聴覚障害教育における自立活動、個別の指導計画、発語発音指導、聴覚学習、専門性及び個別の指導計画 7 指導の実際① 各発達段階における指導、乳幼児段階からの支援、保護者支援 8 指導の実際② 学習指導案・保育計画案の作成方法、まとめ 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	90 分	事前に配布した参考資料を読み、とくに障害の医学モデルと社会モデルのとらえ方を確認し、難聴と関連付けて理解しておくこと。
	復習	90 分	授業計画の各項目で示した課題について、配布した資料等を参照しながら授業内容の理解を深める。最終課題へ取り組む。
成 績 評 価 方 法	講義における小レポート (20 点)、提示課題の取り組み状況 (20 点)、レポート課題 (60 点) により評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	授業の2週間前に参考資料を配布予定。授業全体の資料は当日配布する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021		

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導		
科 目 名 (英 語)	Education for handicapped child teaching practice Pre-post guidance	シラバスNo.	250050370
担 当 教 員 名	矢口 明		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位
開 講 時 期	後期	必修選択	開 講 形 態 実習
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	事前指導では、過去の障害児教育実習の研究授業の動画を視聴し、授業の進め方について学ぶ。合わせて学習指導案の書き方について学ぶ。 事後指導では、研究授業の録画を視聴しながら、指導の在り方についての協議を通して課題を明らかにする。実習報告会では、障害児教育実習で得たことをまとめて報告する。		
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。		
学 修 到 達 目 標	障害児教育実習は、特別支援学校において障害のある児童生徒への指導を行う重要な場となる。事前指導と事後指導を通じて、児童生徒の障害についての的確に理解し、指導目標を達成するための指導の手立てや評価の方法について理解することができる。		
受 講 の 留 意 点	高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	事前指導では、学習指導案を参照しながら過去の障害児教育実習の動画を視聴して、授業についての協議を行い、学習指導案の作成方法について学ぶ。事後指導では、自分自身の研究授業の動画を視聴し、課題点等を協議する。実習報告会では、実習の概要や課題、感想等について発表する。 視聴した授業について、児童生徒への働きかけの工夫や課題点などに関して協議することで、授業研究の在り方を理解する。		
授 業 の 計 画	<p>事前指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 過去の研究授業の動画を視聴し、授業についての協議を行う 3. 学習指導案の作成 4. 模擬授業 <p>事後指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児教育実習の反省 2. 実習についての協議 3. 障害児教育実習報告会の資料作成、報告会参加 		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	
	復習	分	
	予習復習の内容については適宜指示をする。		
成 績 評 価 方 法	講義への参加態度 (30 点)、学習指導案の評価 (30 点)、実習報告会 (40 点) を総合的に判断して評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習日誌 (第 4 版)、学術図書出版社、2019 年		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	障害児教育実習		
科 目 名 (英 語)	Education for handicapped child teaching practice	シラバスNo.	250050380
担 当 教 員 名	矢口 明		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位
開 講 時 期	後期	必修選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	障害のある子どもたちが在籍している特別支援学校において実習を行う。指導教諭の指導のもと、授業参観や児童生徒への授業を行うことなどを通して特別支援学校の現状に触れることにより、特別支援学校教諭にとって必要不可欠な「子どもたちの障害（特性）の理解」や「障害の状態に応じた適切な関わり」について学ぶ。授業実践を通してチームティーチングの在り方について学ぶ。		
対応する ディプロマ・ポリシー	幅広い教養や基本的なリテラシーを基盤として、人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身に付けている。		
学 修 到 達 目 標	実習を通して特別支援教育についての理解と認識を深め、特別支援学校教諭の職務や役割について理解することができる。児童生徒の障害についての確に理解し、指導目標を達成するための指導の手立てや評価の方法について理解することができる。		
受 講 の 留 意 点	高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、これまで学んできた障害のある児童生徒への教育に関する専門的な知識を生かして、授業を計画・実践・評価を行うこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	特別支援学校において、配属された学級または担当する指導グループの児童生徒の教科・領域について、学習指導案の作成や教材研究を基に授業を行う。 実習中は、指導教諭から受ける指導内容や教育実習録への記載を通して、特別支援学校の学級経営等の在り方や学習指導案の作成、教材研究、授業実践と反省等を行い、特別支援教育への理解を深めることができる。		
授 業 の 計 画	実習先の特別支援学校の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に学習する。 0. 実習校における事前指導 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面や生活指導場面の観察 3. 学習場面や生活指導場面の部分的指導 4. 指導計画及び学習指導案の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業の実施（学習指導案作成、教材研究、授業、反省会） 8. 教育実習日誌の記入		
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	予習	分	
	復習	分	
成 績 評 価 方 法	実習先の特別支援学校の評価及び研究授業の評価を基に、総合的に判断して評価を行う。		
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習日誌（第4版）、学術図書出版社、2019年		
参 考 書 (購 入 任 意)			